

新宿区教育委員会会議録

平成27年第6回臨時会

平成27年7月17日

新宿区教育委員会

平成27年第6回新宿区教育委員会臨時会

日 時 平成27年7月17日(金)

開会 午後 1時31分

閉会 午後 7時01分

場 所 新宿区役所6階第二委員会室

出席者

新宿区教育委員会

委 員 長	羽 原 清 雅	委員長職務代理者	松 尾 厚
委 員	菊 池 俊 之	委 員	今 野 雅 裕
委 員	古 笛 恵 子	教 育 長	酒 井 敏 男

説明のため出席した者の職氏名

次 長	中 澤 良 行	教 育 調 整 課 長	木 城 正 雄
教 育 指 導 課 長	横 溝 宇 人	審 議 委 員 会 委 員	小 林 力
審 議 委 員 会 委 員	中 野 有 一 郎	社 会 科 調 査 委 員 会 委 員 長	畠 山 直 也
技 術 ・ 家 庭 科 調 査 委 員 会 委 員 長	寺 島 京 子		

書記

教 育 調 整 課 管 理 係 主 査	高 橋 和 孝	教 育 調 整 課 管 理 係	薬 袋 和 明
---------------------	---------	-----------------	---------

議事日程

協 議

- 1 平成28年度使用新宿区立中学校教科用図書採択について（教育指導課長）

◎ 開 会

○羽原委員長 ただいまから平成27年新宿区教育委員会第6回臨時会を開会いたします。

本日の会議には全員が出席しておりますので、定足数を満たしております。

本日の会議録の署名者は、古笛委員にお願いします。

◎ 協議1 平成28年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について

○羽原委員長 本日は議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 平成28年度使用新宿区立中学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日は、教育委員会会議規則第15条の規定に基づき、平成28年度使用新宿区立中学校教科用図書審議委員会の委員と、平成28年度使用新宿区立中学校教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席していただいております。

本日の協議の進め方ですが、専門的に調査、検討を行った調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに、学習指導要領の中での目標、教科の特性等について、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、本日出席の審議委員会委員から、種目ごとに審議委員会における審議の内容等について説明を受けまして、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

本日は、技術・家庭（技術分野）、技術・家庭（家庭分野）、社会（地理的分野）、社会（歴史的分野）、社会（公民的分野）、地図の各種目について協議を行います。

なお、本日協議する各種の教科用図書については、8月7日に開催する予定の教育委員会定例会で採択を行うことを予定しております。

本日は多くの傍聴の方々にいらしていただきありがとうございます。傍聴に当たって1つお願いがございます。傍聴券に記載の事項を遵守していただき、傍聴していただきますよう、改めてお願い申し上げます。

最初に一言申し上げておきますが、各団体、個人の方から、特に社会科の教科書の問題につきまして要望等をいただいております。教科書採択に関心をおもちいただきありがとうございます。

この要望書等につきましては、各委員とも読ませていただきましたが、教育委員会が教科書の採択権者でありまして、その権限と責任において適正かつ公正に採択を行うこととなります。そのため、各学校における調査、各教科調査委員会における検討、協議、さらに教科用図書審議委員会での結論と手順を重ねて、本日に進んできています。みなさまにはこのプロセスをぜひ御理解いただきたいと思っております。

それでは、技術・家庭（技術分野）について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等と、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 技術・家庭科調査委員長を仰せつかりました新宿養護学校校長の寺島です。よろしくお願いいたします。

技術・家庭の目標は、生活に必要な基礎的な知識と技術の習得を通して、生活と技術とのかかわりについて理解を深め、進んで生活を工夫し創造する能力と実践的な態度を育てることにあります。これは社会において自立的に生きる基礎を培うことにつながります。家族と家庭の役割や生活に必要な衣食住、情報、産業などについての基礎的な理解と技能を養うことや、それらを活用して課題を解決するために工夫し創造できる能力と実践的な態度を育成することにあります。

技術分野の目標としましては、ものづくりなどの実践的・体験的な学習活動を通して、材料と加工、エネルギー変換、生物育成及び情報に関する基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、技術と社会や環境とのかかわりについて理解を深め、技術を適切に評価し活用する能力と態度を育てることにあります。特に技術分野におきましては、ものづくりを支える能力などを一層高めるとともに、よりよい社会を築くために技術を適切に評価し活用できる能力と実践的な態度の育成を重視しております。

持続可能な社会の構築や勤労観、職業観の育成、これはキャリア教育にもつながっていきます。技術と社会・環境とのかかわり、エネルギー、生物に関する内容の充実を図ること、また、情報通信ネットワークや製品の安全性に関するトラブルの増加に対応し、安全かつ適切に技術を活用する能力の育成の充実を図ることにあります。

4つの分野の履修があり、そして1年生の最初の段階で学習のガイダンスがあります。本区の生徒にとって学習しやすいことを基準にして報告書を出させていただきました。

なお、年間の授業時数は、1・2年生は技術分野と家庭分野を合わせて70時間、3年生が35時間です。偏りのないよう、1・2年生は各学年で35時間ずつ、3年生は17.5時間ずつ履修をしているのが現状でございます。

以上でございます。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御意見、御質問がございましたらどうぞ。

○古笛委員 では、私から少し質問させていただきたいと思います。

どうしても古い世代なので、私は、技術は男子で家庭が女子というイメージをもっていますが、技術というと、女子生徒は家庭科と比べると苦手な感じがあると思います。その点、女子でも受け入れやすい、分かりやすいという点について、それぞれの教科書の工夫は見られたのでしょうか。

○技術・家庭科調査委員会委員長 男女共修になりまして、教科書も技術分野では、例えばのこぎりをひく場面であったり、機械を操作する場面であったり、そういうところに女子生徒の写真を載せたり、その反対に家庭分野において、例えば男子が調理実習をしているとか、保育園などで小さな子どもたちと男子が遊んでいるとか、そういう写真なども載せております。

教育の現場の中では、男子生徒が非常に手先が器用で、調理実習などで上手に切れるのを女子生徒が感嘆したり、女子も、防災ライトですとか、東京書籍の130ページに写真がありますけれども、率先して、ここはこうやってつくるんだよとリードする、そのような場面も見られます。

小学校は、既に男女共修で小学校5年生から行っておりますので、子どもたちにとっては、中学校に入っても小学校の家庭科の延長で男女一緒に学ぶ。そして新しい技術分野が加わっても、現場にとっては大きな混乱などはございません。

○松尾委員 技術の場合には、学校の設備を利用して実習する場面が想定されると思いますけれども、実際に新宿区の学校に主に備わっている機材等と、各教科書の使用例等について、何か問題となる点とかございましたか。

○技術・家庭科調査委員会委員長 新宿区の場合は、年に一回、区教委に施設、設備ということで技術科の、特に実習する部屋ですね、そちらについて見ていただくということがございます。まずどの学校も基準はしっかり満たしておりますので、電動の糸のこですとか電気のハンダごて、そういうものがあります。生物育成においても、校庭の狭い学校でも、例えば中庭のところに植木鉢を置いて育てるとか、それぞれ工夫をしております。また、なかなかそういう場所がなくても、生物育成においては、例えばカイワレ大根だとか、そういうものを栽培するというので、日が余り当たらないとか、場所的にちょっと狭いと思われるよ

うなところでも、工夫次第でできます。

○**今野委員** 技術の場合には、いろいろ道具を使って作業したりということで、安全面の配慮が大切になると思います。それぞれの教科書でも、かなり安全面についてはいろいろな記述が工夫されているようです。特に対象になった教科書の中で、違いというか、特徴的なものがあったら教えてください。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 教科書の会社それぞれ、安全面に関してはかなり細かいところまでしっかり載せております。例えば、まとめて前のほうのページに、「安全」に留意するということで載せてあるところもあります。教科書の中では、実際に生徒が作業するときに、こういうところで注意したほうがいいということで、例えば東京書籍の58ページの一番下の左端に、「安全」ということで囲んであります。これは、生徒が実際に作業するときに、木材ではこんなことに注意したらいいということが、その場その場で分かるということで囲んであります。ですから、教科書によって載せ方は多少違ってはいますが、どこの教科書に関しても安全面についてはかなり配慮して載せてあります。

開隆堂の14ページのところを見ていただくと、「学習の進め方と作業の安全」というところで、大きく取り扱っております。それから16ページのところ、これは実習室の金工室や木工室を、実際にこのような作業のときに注意が必要だということで、大きく取り上げています。そういうところから子どもたちが安全に作業するということを学んでいきます。

特に近年、子どもの生活の中で、家でのこぎりをひいたり、くぎを打ったりという場面が減っているかと思います。学校で初めて体験するというのも大変多いというのが現状ですので、そのためにも、実習室の中では安全に配慮して行っております。特に、16ページのイラストを見ていただくと分かると思いますが、女子生徒が真ん中のところでドリルを使って固定をしないで作業しているという場面があります。髪の毛などもこのように実際に束ねることによって、機械に巻き込まれることなども防ぐことができます。また、安全にということで、これは体育着でしょうか、このような服装をすることによって、スカートがひらひらとしないというようなことも含めまして、配慮しているということがあります。

○**菊池委員** 技術の分野は、私は余り記憶になかったのですが、この教科書を拝見しまして、昔と大分違うなと思うのは、ものづくりの楽しさと技術を学ぶということは、今の自分では何もしない社会から学ぶことが非常に多いと思いました。しかもこの分野が、のこぎりをひいて何かをつくるというだけにとどまらず、植物の育て方、コンピューターのこと、それから将来のごみとかエネルギー問題、そういうところまで全部、これからの社会がどうなって

いくつかというものが、技術を通して子どもたちが理解できるような内容になっているのではと思って、とても感動しました。

教科書の内容そのものについては、それぞれ違いがありますがけれども、全般的に非常によくできていると思っています。技術、ものづくりの教科書であるけれども、ものづくりを通して社会の楽しみ方というか、将来こういう社会になってもらいたいとか、そういうところまで発展的に教えていただけると非常にいいというのが私の感想です。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** やはり生徒にとって物をつくるということが、子どもにとっては余りない経験なのかなというところも確かにございます。

ただ、実際に教科書で触れることによって、子ども自身が、やってみることは楽しいことだとか、自分の木工作品ができ上がることによって家で活用してみようとか、それから、種まきから始めて実際収穫まで体験をして、それをさらに持ち帰って調理をしてみるとか、そういう一連の経験から、ものづくりということが終わるのではなく、心を育てるところにもつながっていきます。

子どもへの指導の際に、人に対して優しくしなさいなどと言うこともありますがけれども、自分のまいた種がこんなふう実がなって、なおかつ家に持って帰って家族と食べたら、こんなにおいしかったということが、豊かな心ということにつながっていきます。

○**教育長** 技術・家庭の中で、我々が子どものときと違って情報化の話が取り上げられています。教科書が3冊ありますが、その中で特に情報セキュリティの部分等々で、この教科書のこの部分はすごく工夫をしてお勧めですというものが具体的にあれば、教えていただきたいと思います。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 東京書籍の206ページのところに、「情報セキュリティ技術を知ろう」という項目がございます。実際のトラブルの例ということで、よく知らないウェブページで動画をダウンロードしたとか、今、子どもを取り巻く環境では、いろいろな誘いというか、それがどういうことにつながっていくかということが分からないまま、トラブルに遭うということが非常に増えております。このように実際にイラストを使って分かるようにしたり、セキュリティ対策のためのソフトウェアということで208ページ、209ページのデータの暗号化やバックアップ、210ページからは、安全に利用するというところで、非常に便利だけれども、きちんと安全に使うということを生徒に教えていく必要があります。ただ単に便利だからいいということで利用しないように、こういうところのトラブル関係ですとか、知的財産権ですとか、そういうことも含めて、授業を行っていくというのが大切だと思

っています。特に情報の授業の中では、「安全」ということでは、教員も重きを置いて生徒にも伝えております。

また、社会の問題でも、中学生が被害に遭ったということもありますし、そういう点では、教科書に最新のことを載せても、どんどん手口が巧妙化していきますので、教科書で基本を押さえた上で、そのときそのときに合った情報機器のトラブルですとか安全ということで授業をしておりますので、御安心いただければと思います。

○羽原委員長 ほかに御質問等ございますか。

特に御意見等ございませんでしたら、次に、技術・家庭（家庭分野）について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○技術・家庭科調査委員会委員長 家庭分野の目標としましては、衣食住などに関する実践的・体験的な学習を通して、生活の自立に必要な基礎的・基本的な知識及び技術を習得するとともに、家庭の機能について理解を深め、これからの生活を展望して、課題をもって生活をよりよくしようとする能力と態度を育てることにあります。これは自己と家庭、家庭と社会のつながりを重視し、これからの生活を展望して、よりよい生活を送るための能力と実践的な態度の育成が掲げられております。この中には、自己と家庭、家庭と社会のつながりという空間軸の視点と、これからの生活を展望するという時間軸の視点が一層重視されております。

前者は、個人や家庭の範囲で常にとどまっているのではなく、社会とのかかわりにおいて生活を捉えることのできる力を一層重視するということになります。社会に開かれた個でありたいという願いが込められており、空間軸を従前より広げて認識し、他を配慮して他とともに行動することが必要とされています。また、これからの生活を展望するという時間軸の視点は、従前に引き続き重視されております。この時間軸を留意することによって、現在の生活だけでなく、身近なこれからの生活を視野に入れて、期待を持って生活をよりよくしようとする意欲や態度につながるものが求められております。

さらに、学習の最初にガイダンス的な内容を位置づけることによって、見通しを持って3年間の学習をしていくことにつながります。これは小学校までの生活と家庭科の学習を見詰め直し、中学校での技術・家庭科の学習に見通しをもたせることをねらいとし、小中の円滑な接続を目指しております。

よい未来を築いていくこと、将来にわたって自立した生活を営む見通しをもつということ

を重視しております。

以上のことから、家庭分野について調査をさせていただき、また報告をさせていただきました。

以上です。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御意見、御質問等ございましたらどうぞ。

○古笛委員 仕事柄、一番興味を持ったのは、消費者トラブルの問題です。消費者教育というのはすごく大切だということを感じていまして、それぞれの教科書もある程度分量をとって、本当に分かりやすく、私たちにも役に立つぐらいのことが書かれています。このあたりは、どうしても教科書の最後のほうになってしまいますが、いわゆる家庭科というよりも、社会における大切な問題というところで、それぞれの教科書において工夫されていると思いましたが、先生方の御意見としてそのあたりはどうかということについて1点お聞きします。

もう一つ、技術科のように、自宅でのこぎりを使うことは余りないかもしれませんが、家庭科で調理の実習をしたら、すぐにおうちに帰ってでもできます。親の立場としては、学校で習ったことをすぐ実践してもらいたいと思っているのですが、そのあたりの工夫はそれぞれ見られるかどうか、御意見をいただけたらと思います。

○技術・家庭科調査委員会委員長 確かに消費に関する学習がどの教科書も、A B C Dの順だとするとかなり後ろになっているということですので、そのことについてお話をいたします。

消費のところは、消費として独立して学習することもありますけれども、衣服などで表示の見方だとか、例えば東京書籍の232ページになりますけれども、ウールマークですとか、防災ラベルなどが、カーテン、じゅうたんなどに入っているということで、住生活の学習でラベルを見てみたり、それから、衣生活の学習のところでは、ウールマークはこのようなマークがついているということで話をしていきます。

ですから、商品の購入に関して、例えば調理実習で何か食材を買うといったときに、どんなものを買ったらいいのかということに関連づけています。また、実際に物を購入するという場面においても、様々なトラブルがあるということで、生徒がTシャツを買いに行くなど実際の場面を想定して、まちを歩いたときに、アポイントメントセールスなどでどのように声をかけられるのか、マルチ商法で物が届くといった事例を、生活と関連づけながら学んでいます。確かに消費というのは、それだけをとるととても難しいんですけども、生徒の実際の生活と照らし合わせながら行うということで、理解が進むと思っております。

また、調理のことでお話が出ましたけれども、実際に子どもにとって、今、いろんなことがインターネットで調べることができますけれども、やはり何かつくるとというのが、教科書を見ればいいやというような、そういう話が出るんですね。ですから、夏休みに何か家族で御馳走しようとか、そういうことで宿題が出たりとかもありますけれども、教科書に載っているものでこの順序でやってみようというのが多いです。

そしてまた、学校の中で、例えばしょうが焼きを実習したといったときに、家庭でもしょうが焼きをやってみましょうというふうなことがつながりであります。そうすると、何かそこで工夫をします。しょうが焼きだけでなく、そこに添えるものも一緒にあわせて炒めて、どんぶりものにするとか、そういうことで子どもたちを次の発展的な学習へ進ませるということがよくあります。

また、しょうが焼きのときのショウガも全部すりおろすのではなくて、一部残しておいて、でき上がった豚肉の上にトッピングして、ちょっとおしゃれに見せるとか、そういうことも子どもたちは工夫をします。

ですので、学校で1回やってみたことが、家庭に戻ったときに、それがお弁当のおかずになるとか、東京書籍で言うと82ページにお弁当が載っておりますけれども、そういうところで、実際に御飯を炊いて、しょうが焼きをつくって、野菜をゆでようというようなことで、子どもたちが発展的なものに考えていきますので、子どもにとって一番身近な料理書というんでしょうか、そういうものに教科書はつながっていきます。

以上です。

○**今野委員** 教科書を見ていましたら、日本型食生活のことが、コラムなどで参考として書いてあり、バランスがとれており、とても健康にいいということで、世界的にも日本食が評価されるものになっているということです。とても大切な指摘だと思い、とてもいいのですけれども、最近むしろ、確立されていた日本型食生活と言われるものが大分崩れてきていて、家庭の中での食事が十分でないとか、いろいろな課題が出ているような気がします。教育図書、開隆堂を見ましたら、そこまでの内容は書いていませんが、位置づけとしてはその程度でいいのでしょうか。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 日本型食生活ということで、バランスのよい食事のとり方ということで、確かに現代の子どもたちを取り巻く環境としては、朝御飯も満足に食べないで学校に来るとするのは非常に多いです。確かにそれぞれ理由もありますけれども、この教科を通して子どもたちに教えていくのは、自分がつくれるようになろう、自分が生活の主体者にな

ろうということです。だから、親が非常に忙しくて朝御飯をつくれなくても、学校で御飯の炊き方を習ったとか、学校で豚汁をつくったというようなところからスタートするということがあります。

特に、御飯とおみそ汁とおかずということで、なかなかおかずまで手が回らないこともありますけれども、最低限、小学校でも御飯とみそ汁はつくっておりますので、中学校に入った段階で、実際にたんぱく質のおかず、肉や魚、そういうものを焼いたり炒めたりということを学んでいきます。最初のうちはできなくても、だんだんそれを積み重ねていくことによって、献立の学習として、小学校では1食分、中学校では1日分ということによってやっていきます。そういう中から、献立の組み合わせを子どもたちが覚えていきます。

ですので、ここに載せている日本型の食生活というところで、開隆堂では食事バランスガイドも載せてありますけれども、バランスのよいものをとることが、子どもにとってどういうものかということがわかっていくわけです。自分が立てた献立で、これはどうだろうということを、授業の中でシェアし合うことによって、炭水化物は足りているけどたんぱく質が足りないとか、そういうことを生徒がどんどん気付いていきます。ですから、その気付きを大切にしながら、そしてなおかつ自分でそろえてみようという方向で指導しております。

保護者が忙しくて朝御飯を用意できなくても、前の日にパンを買って、朝起きてハムを挟むことだったらできそうだなと、そういうところからスタートしていくということで、なるべく欠食している生徒を減らしたいということもあります。

また、新宿区の場合はメニューコンクールもありますので、そういうところで子どもたちが献立を考える機会があります。それから、メニューコンクールの場合は課題が出ますので、例えば、カルシウムを多くとるにはどうしたらいいとか、そういうこともございますので、食ということを考える機会が大変多いです。

また、全国の中学生を対象とした「『あなたのためのおべんとう』コンクール」にも、学校によっては学年のほとんどが応募するということもあります。食ということを通していろいろと活動しているということが新宿の子どもたちの力になっているのではないかなと感じております。

以上です。

○松尾委員 先ほどの技術のときの古笛委員の御質問とちょうど反対のことをお聞きしたいと思います。伝統的には技術は男子で家庭は女子でという部分がありましたが、私自身、学生時代に一人暮らしをしたときに家庭科で学んだことが大いに役立ちまして、とても学んでよ

かったと実感しました。家庭科につきまして、男子生徒にいかに積極的に取り組んでもらうかという、そういう工夫についてはいかがでしたでしょうか。

○技術・家庭科調査委員会委員長 男子生徒に積極的に取り組んでもらうための工夫についてですが、生徒は、男の子も女の子も食べるということに興味をもっている子がかなりおります。例えばお肉の料理だったらどうかといったことで、子どもたちに実際に教科書を見ながら考えさせたり、器用な生徒も結構おりますので、そういう子がみんなの前で実際にしょうが焼きを焼いてみる、鮭のムニエルなどをみんなの前で実際にやってみるなど、実技を通して、男の子も得意になってやるというところもあります。

また、教科書には、パティシエですとか、実際には職人さんや料理をやっている人の写真も載せてあります。そうすると、服飾の世界においてもデザイナーとして男の人がこんなにいるとか、料理界も同じだといった話から、男女関係なく興味をもちます。また、男の調理といったことで、男子は男子でどんぶり物であったり、学校ではしょうが焼きだったけれども、自分の家では別の味つけをして、少し分厚いお肉を焼いてみたということで、夏休み明けに発表をするといった場面が見られます。ですので、余り性差はなく、子どもたちは取り組んでいるというのが現状です。

○羽原委員長 男女の問題が出たので、先生に何より教科書会社の問題かと思いますが、去年の小学校の採択のときに気がついて、編集委員の男女比について発言しました。今回は、東書の編集委員は、僕の数え違いはあるかもしれませんが、64人中男性が半分強、それで教育図書は32人中5分の1が男性、開隆堂は7分の1が男性、名前がどちらか分からないところがあるので数値がはっきりしませんが、家庭科は、家庭を主として維持する人は女性であるという感じの教科書かなと思いました。つまり、もう少し男性を編集委員に入れたほうがいいのではないかという印象です。男の子にも女性の仕事、女の子にも男性の仕事という風潮に教科書はなじまないのかなという、そういう印象がありました。何かその辺の教科書全体を通じての印象がございましたら一言どうぞ。

○技術・家庭科調査委員会委員長 やはり写真もそうですけれども、イラストなどでも、男の子が出てきて何か答えているなどの場面がありますので、特に中学校の教科書で、男性の役割が少ないということは、今まで意識したことは余りございません。大体どこのページにも両方出ているという印象をもっております。また、子どもにとっても、こういうことは男性の役目だとか、こういうことは女性の役目だというふうには、教育の授業の中では扱ってはおりません。東京書籍の212ページの実習例のところでは、おじいちゃんやお父さん、それ

からお母さんにおもちゃをおねだりしているみたいなことで、半々で載せているということがありますので、子どもにとっては、これは男性がやらなければとか、そういうことはないかなと思っております。

また、今現在、少子化ということで、これは開隆堂の20ページですけれども、生まれてすぐにお父さんが赤ちゃんを抱っこしている写真などがあります。このあたりも一昔前と異なっていると思います。多分、この帽子をかぶっているので、立ち会い出産をして、すぐその場で写真を撮ったのかなと思いますので、そういうところでも男女の区別なく進んでいるというところは感じると思っております。

○**羽原委員長** 昨年の小学校の教科書のときも、写真も記述も男女対等で載っているという御説明でした。僕が言いたいのは、編集委員に女性が圧倒的に多いということです。女性が多くていいのですが、男性の物の見方、立場について、女性と若干違うところがあるであろうと思うのですが、それが教科書の編集委員の男女比にばらつきがあると投影の仕方が変わってこないかなという懸念があります。教科書本体は別に、問題があるとは思っていませんが、編集委員の数が余りにも他教科とも違う形になっているので、先生の印象を伺いました。

○**菊池委員** 家庭科といいますと、昔ながら料理とか裁縫とか、そういうイメージをもっていました。幼児について、幼児の体の発達段階、心の発達段階、遊びについて非常に詳しく書いてあります。教科書によって記載している場所は違いますが、子どもの発達を理解することで自分の情操教育にもなるとか、あるいは将来子どもをつくって育ててみたいとこのころから思わせるとか、いろいろな要素があるのかもしれないけれども、非常によくできていて、今さらながら教えてもらえる部分がたくさんありました。料理とか衣服とか、いろいろ大切な部分がありますけれども、家庭科でこの部分が出てくるということに非常にシンパシーを感じました。いじめとかにも影響があるかもしれないし、少子化にももちろん、子どもをつくりたいという気持ちを育むという意味でも、教科書はよくなったなと思いました。その点について教えてください。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 幼児のことに関しては、従前というか、今までですと保育という扱いをしていましたが、前回の学習指導要領より家族と家庭へということで、子どもの成長というのが入りまして、生まれてから1歳になる乳児期のときは高等学校の扱いとなります。そして、中学校の場合は、満1歳から6歳、小学校入学前までを扱うということになっております。

教育図書の教科書の30ページを見ていただくと、生まれたときの手形とか足形が載ってお

りまして、これを見ると生徒は非常に驚きます。少子化なので、下に小さい子がいないとか親戚の子にも触れたことがないという子どもが非常に多いですから、こういうのを見て本当にびっくりします。

それから、学習指導要領にもありますけれども、体験を積むということで、多くの学校で保育園や幼稚園、それから近くにない場合は児童館とか、そういうところに出かけて行って、小さな子どもと一緒に触れ合うということがあります。これは家庭科の授業の一環で行っております。私も現場にいたときに、近くの子ども園をお願いをして、生徒を連れて行って、そこで一緒に遊んで体験するというのをいたしました。そうすると、子どもの体ってこんなに小さいとか、子どもの遊びってこういう遊びをするのだなといったことから、自分たちも確かにしたというところにつながります。さらに、非常に教育的効果が高いのは、どの子ども非常にいい顔をして帰ってくることです。それはお兄ちゃん、お姉ちゃんといって頼られた、それから実際に触れてみたら、こんなに小さくてかわかった、そういうことで中学生が学校に戻ってきて、先生、もう一回行きたいですとか、慕われてうれしかったというようなことで、子どもをかわいいとまず思うところからスタートすると考えております。

ですので、実際に触れ合うことによって、生徒自身が幼児の成長ということに対して考えていきます。

触れ合う時間としては本当に、授業で1時間ぐらいとればというようなところです。このほかに中学校の場合ですと総合的な学習で、実際に幼稚園に訪れるということがあります。ただ、そのときの目的と家庭科の授業で行く目的は違っておりますので、あくまでも家庭科の場合は子どもの成長ということで、そういうことを見聞きするというので出かけていきますので、そういうところから実際にいい効果が上がっていると思っております。

以上です。

○**教育長** 実際の現場がどうなっているかということですが、イワシをさばいて蒲焼をつくりましょうというのが3者とも載っていますが、実際に授業でイワシをさばいて蒲焼をつくるということは、今の授業時間中にできるのでしょうか。

○**技術・家庭科調査委員会委員長** 実習例は1時間の中でできるような設定になっておりますので可能です。ただ、青魚ですとアレルギーの心配がありますので、特にこの魚でなければいけないということは一切ありませんので、その地域や学校の状況に合わせて選択できればいいということになっております。

ただ、今までの経験では、魚に関しては鮭のムニエルをつくる学校が多いかなと感じてお

ります。鯖も載っていますけれども、実際に鯖アレルギーの生徒がおりますので、そこは配慮しております。

○古笛委員 技術、家庭両方に関してなんですけれども、それぞれ技術のほうも家庭のほうも教科書はよくできているなと思って、私自身これで勉強したいなと思います。なかなか迷うところはありますけれども、技術と家庭それぞれ教科書が別の会社のもので特に違和感がないのか、それともできれば一緒のほうがいいのか、教える先生側あるいは教わる生徒側から見てどうでしょうか。

○技術・家庭科調査委員会委員長 東京都の中でも別々に採用しているところは幾つもあります。授業時間は技術分野の時間、家庭分野の時間と、時間割の中で別々なところに入っておりますので、別々の会社のもので生徒にとって違和感はありません。ただ、できれば同じほうが、中身は統一感があるので、そろえていったほうが生徒にとっては勉強はしやすいかなというところがございます。

○羽原委員長 ほかにございませんか。

特に御質問等ございませんでしたら、次に、社会（地理的分野）について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等と、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論等について御説明いただきたいと思います。

○社会科調査委員会委員長 私、社会科の調査委員長に指名されました畠山といたします。

では、中学校社会科の目標について御説明します。

中学校社会科の目標は、平成20年から基本的には変わらず、広い視野に立って、社会に対する関心を高め、諸資料に基づいて多面的・多角的に考察し、我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を深め、公民としての基礎的教養を培い、国際社会に生きる平和で民主的な国家・社会の形成者として必要な公民的資質の基礎を養うというのが社会科の目標になっております。

その中で、地理です。地理の1番の目標が、日本や世界の地理的事象に対する関心を高め、広い視野に立って我が国の国土及び世界の諸地域の地域的特色を考察し理解させ、地理的な見方や考え方の基礎を培い、我が国の国土及び世界の諸地域に関する地理的認識を養うというのが、地理的分野の1番の目標ということになっています。これに基づきまして、社会科調査委員会では、地理に関しても歴史に関しても公民に関しても、基本的には分かりやすく、取りかかりやすい教科書をとるということで選定をいたしました。

また、新宿区の特長として、外国籍の生徒や外国にルーツをもつ生徒の割合が多いこと、

あるいは最近の、これは一般的な傾向ですが、発達障害等の特別な支援が必要な生徒も理解しやすい教科書と、そういう視点から調査をしてみました。

以上です。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御意見、御質問等ございましたらどうぞ。

○今野委員 どの教科にも共通かもしれませんが、子どもたちが学習するときに、学習の初めに、学習の目的とか具体的に何を学習するのかということがよく分かることが必要ですし、履修の最後には、振り返りをきちんとしてまとめていくというのが大切だということが言われています。恐らく見た感じ、地理の場合にもそれぞれの教科書、いろいろな工夫をしていると思いますけれども、今回対象になっている教科書でその面での違いがあるのでしょうか。あるいは特にこの教科書では配慮が優れているなど特筆すべき点があれば教えてください。

○社会科調査委員会委員長 今、導入の話がありましたけれども、地理については1年生のときに授業を受ける形になります。当然、小学校から「地理」について、漠然とした形では入っていたと思います。何か難しいことをやりそうだという中で、各時間の導入、まとめというところもありますが、大導入といって、4月に入学して初めて地理の教科書に触れるというときに、表紙をまず見るというところから検討してみました。

その結果、幾つかの教科書は写真がたくさん盛り込んであって、少し見づらいものもありました。そういう中で、調査委員会では、最もシンプルなものがないのではないかと。初めに表紙を見開くとそこが第1時間目の導入という形になるのですが、世界地図をセンターに置いて、主な国を紹介していたりというものもあれば、外国で活躍する日本人の紹介をテーマに、こういう国ではこんなことだというようなものがあったりします。そういった点も見ながら、この教科書が導入のところでは一番入りやすいというのを見て取りました。

また、各時間での導入という点では、それぞれの教科書が現在は学習課題ということで、初めの部分に記載がしてありまして、最後のところに、「確認しよう」とか「まとめてみよう」といったような形で紹介されている。ある教科書については、学習課題が1つあって、「まとめてみよう」というのが2つある。そのような形で、本調査委員会としましては、まとめが2つある教科書のほうが使いやすいのではないかとということで、選定の基準としたところがあります。

各教科書とも学習課題が書いてあって、最後のまとめを書いてあるのは基本的には同じだ

と感じております。

○**松尾委員** 地理の学習においては、様々な地域の特色を捉えて、学習指導要領によれば、「日本や世界の地域の諸事象を位置や空間的な広がりとのかかわりでとらえ、それを地域の規模に応じて云々地域的特色や地域の課題をとらえさせる」ということが書いてあります。様々な地域でそういった考察を行っていくということが地理の学習のかなり大きな部分ではないかと思えますけれども、そう考えたときに、地理の教科書というのは実際授業の中でどのように使っていくんだろうか。単純にこの地域はこうですということをやするわけではないわけです。だから、それなりに工夫して教科書を使っていかないと、指導ができないのではないかと思うので、そのあたりを御説明していただきたいと思えます。

○**社会科調査委員会委員長** 社会科の授業というのは基本的には、かつてはいわゆるレクチャー方式ということで、先生が黒板に向かって書いて、掛け地図という大きい地図を、地図帳を見て確認しろ、赤丸をつけろという、そういう感じであったと思います。現在は、新宿区には全ての学校に実物投影機も入っていますので、地理でいえば、まず、その地域の特色ある写真などを出します。これは一つの例ですけれども、この国ってどこの国か分かるかなというあたりから入っていく。その場所について分かったら、地図帳で調べてみよう、何ページを開いてそこでこの場所を確認してみようというところから授業に入りまして、この中で、こんな産業が発達しているよということであれば、そのグラフを見せながらまた確認をしていく。これについてどういう特徴があるか、隣同士で少し話し合ってみようというような形で進める。2人で話し合ったものをもとにして、今度は6人グループでまとめてみようということを進めていく。その中で教科書の図を使ったりまとめのところを使ったりしながら話し合いをもち、発表をしてみんなで聞いて、確認をして、最終的に教科書を見たり、地図帳を見たりという中で授業を展開していくというのが基本的な今の地理の授業のあり方だと考えています。

そういう中で、一番使いやすいものということで選定をしてみました。

○**古笛委員** 松尾委員の今の御質問に少し関連しますが、教科書と地図帳の役割ですけれども、教科書も昔と比べるととてもカラフルで、写真もきれいで、中に載っている地図もすごく分かりやすいのがたくさんあります。各教科書を見ると、教科書に載っている地図の中にいろいろ、単に図だけではなくて、国名が全部詳しく書いてある、文字で書いてあるものもあれば、何も書いてなくて、カラーでこの地域は何だというものもあります。教科書の中に載っている地図にはどれほどのことを求めたらいいのか。むしろ地図帳があるから、ぱっと見

て中心となる点だけが分かればいいのか、それとも地図帳と教科書両方を対比しながら見るというのなかなか大変なので、教科書だけを見て、ある程度の情報を子どもたちが受け取りやすいものがあるのか、そのあたり、少し迷ったのですが、いかがでしょうか。

○社会科調査委員会委員長 例えばヨーロッパについてであれば、ヨーロッパのある部分について、農業であれば農業の部分について教科書はスポットを当てて、地図の形で色分けをしています。それに対して地図帳で見ると、これは私の感覚ですが、地図帳は教科書よりも大きいので、その場所は実際にはどのあたりなのかというのを、世界的な、より広い範囲で確認するという意味で、地図帳が使われているという感覚だと思います。

もちろん、教科書のあっちを見たりこっちを見たりというのは、分かりづらいというところも確かにあるので、その辺はもちろんバランスをとりながらやっていますけれども、教科書というのは、農業のことであれば、この辺で小麦をつくっているとか、米をつくっているとか、そういうのが見られる。一方で、そのあたりってどのあたりなのと地図帳で見ると、それがすぐに拡大した状態で見られるから、こちらには日本がある、あちらにはアメリカがあるというのを確認しながら見ていくのが、ある意味、地図帳なのかなと私は感じているところです。

○教育長 私少し分からなかったのが、例えばアフリカ州を見ると、ある教科書は全ての国に対して、見開きの一番初めのところに、アフリカ州というのはこういうところですよというページに地図が載っていて、ある教科書は全ての国名が書いてある。そうではなく、主立った国しか書いてないところもありますけれども、それは授業のときに地図帳を見るから問題ないということなのか。例えば、様々なルーツをもつお子さんがいるときに、私の父親の国が書いてないというのは、いささか残念だなと思うことがあるのではないかなと思って、それはどういうものかなというのを教えてくださいたいです。

○社会科調査委員会委員長 国名について、書いてあるものもあれば省略してあるものもあるということですが、もちろん地図帳にはそれはありますので、仮に国名が入っていない教科書を選んだとすれば、それは十分に地図帳でバックアップできるし、教えていく中で、この子はこのルーツをもった生徒だなということであれば、教科書には載っていないけれども地図帳で見て確認もできるので、そういった意味では、特に心配ないのではないかと感じています。

それから、教科書によっては、地形とか平野部とかすごく細かく書いてあって、なおかつ国名も全部書いてあるところもあるのですが、本調査委員会を選んだ教科書では、もっと漠

然とした地図、そういったものを、最低限押さえられる教科書として、むしろ分かりやすいのではないかと判断して、選定をしたところがあります。

○**教育長** 情報量が多過ぎるというのも教えるにくいところがあると。要するに目移りしてしまって、例えばガーナを教えたいのにコートジボワールのほうに興味がいくような話であれば、重要なポイントだけ教科書の地図に表記してあるほうが使いやすい面がある、こういうことでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** 基本的にはそういうことになると思います。世界の国といたら191以上あるわけで、地理としても、主な州という形で捉えるというのがポイントになります。もちろん興味がある生徒は、例えばスリランカの首都というのはスリ・ジャヤワルダナプラ・コッテなどと覚える生徒もいますが、それは全ての生徒にスリランカの首都を覚えなさい、スリ・ジャヤワルダナプラ・コッテと覚えさせても余り意味がないかなど。長い名前だと、興味がある子はそれについても覚えてしまうというような方向でもっていける、そういう教科書であり地図帳であるのがベストなのかなと感じております。

○**松尾委員** 学習の進め方、それから学習の目標、大変よく分かりましたけれども、例えば首都の名前を覚えること自体が大切なのではないというわけですが、現実的な話として、高校入試で地理について出題がある場合には知識を問われる。覚えていなければ答えられないという問題が出題されるのであれば、それに応じてある程度は知識を身につけさせるという教育もしなければ、現実的でないと思うのですけれども、そのあたりはいかがでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** 実際に、現在の地理における都立の入試問題というのは、もちろん最低限の、日本のところであればこれは最低押さえなければいけないという知識の面というのがありますが、むしろ全く見たこともないグラフが書いてあって、その説明があって、それを読んで問いに答える。例えば教科書では、ある国、ガーナならガーナについて勉強しました。だけどガーナではない、教科書で出ていないような国の産業のグラフが出て、その特徴というのが出て、それを読み取るというのが、都立入試の地理の場合は増えている傾向ですから、単に教科書のことをそのまま教えて、それを覚えればいいではなくて、教科書のグラフを読み取る力を付けるというのが今の地理のあり方だと思います。もちろん最低限の知識は押さえるということですが、むしろ思考力や判断力を養える教科書のほうが優れていると社会科調査委員会では判断をしております。

○**菊池委員** 地理は、世界的な部分を1年生で習い、その後の日本のことが詳しく書いてあるところを2年生が習うという理解でよろしいですか。

○社会科調査委員会委員長 はい。

○菊池委員 地理の地図を見ますと、わくわくして、世界ってこういうものなのかと、写真もカラフルで興味が湧きますし、地球儀を見るとすごく楽しいですよ。それから世界の地図が分かり、大陸が分かり、そして資源がどうなっているとか、国も分かりますね。その中における日本はどうなっているかということにだんだん興味に移っていき、世界の国々の産業が何であるとか、非常によく書いてあります。そして、その次に領土というか、国土ということで2年生で初めて領土が出てくるのでしょうか。

○社会科調査委員会委員長 早ければ1年生の終わりか2年生の最初になります。

○菊池委員 そのあたりで、国土の領海について各者書いてあります。その辺は先生が、発達段階に応じて、1年生の終わらないし2年生の初めの子どもたちが、歴史とか公民ではまずそのことは触れないと思いますが、最初に地理で出てくるような気がします。領土の問題とか。そのときに先生は、領土についてどのぐらいの掘り下げというか、どのぐらいのことを教えるのかなということに興味があります。

○社会科調査委員会委員長 領土の問題に関しましては、私が新規採用のころ、もう30数年前から、日本の領域と排他的経済水域ということで、図をもって説明しています。当然、その端はどこなのという、東の端とか南の端、そういったことで説明をします。

平成26年1月に、竹島と尖閣諸島についても詳細にということで、これは地理的分野でまず詳しく教えます。それから、歴史でも触れるようにということですが、教科書でも歴史では、北方領土についてはかなり細かく、かつて私も授業していましたが、竹島と尖閣諸島については本当に触れる程度でした。

領土・領海等については、発達段階もあって、一番細かくやるのは3年生の公民です。3段階で領土・領海についてはやっていきますので、多分、歴史の中では、このような流れで、ここはこういうふうに決まったと簡単に触れます。地理のほうでは、実際問題として、今、日本の領土・領海はこうなっていると、歴史よりさらに深く、現在の状況はこうなっているというのを触れます。公民ではさらに社会的背景、世界の情勢、実際ここについてはこういう問題があるというところまで、3年生になるとさらに発達段階が上になりますので、そのような段階で領土・領海・領空等については教えているというのが社会科の実態であります。

○羽原委員長 よろしいですか。

ほかに御意見等ございましたら、次に、社会（歴史的分野）について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などに

ついて御説明ください。

○**社会科調査委員会委員長** 歴史の基本的な目標は、歴史的事象に対する関心を高め、我が国の歴史の大きな流れを、世界の歴史を背景に、各時代の特色を踏まえて理解させ、それを通して我が国の伝統と文化の特色を広い視野に立って考えさせるとともに、我が国の歴史に対する愛情を深め、国民としての自覚を育てる、というのが歴史の主立った目標ということになります。

先ほども言いましたように、分かりやすく取りかかりやすい、そして新宿区の特性として、外国籍あるいは外国にルーツをもつ生徒が多い、あるいは発達障害等の生徒がだんだん増えている、そういうことを踏まえて歴史の教科書を選定をしよう。

さらに、社会科は地理、歴史、公民とありますが、恐らく、一番取りかかりにくいのが歴史なのではないかということで、小学校から中学校に入ってきました、そのときに一番分かりやすく取りかかりやすい、なおかつ外国籍等の子ども興味をもって、歴史の主立った流れをつかめるということが大切だという観点から、選定を行ってまいりました。

○**羽原委員長** 説明は終わりました。

御質問、御意見等ございましたらどうぞ。

○**古笛委員** まず、今お話もあつたとおり、どうしても歴史というと暗記科目みたいなイメージがありますが、歴史を面白いと子どもたちに感じ取ってもらうためには、初めて接する教科書がどのようにして子どもの興味を引くかということが大切だと思います。それぞれの教科書で工夫している点が違うかと思いますが、何か主立ったところでお気づきの点はございますでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** それぞれの教科書はそれぞれに工夫をしております。先ほどの地理のときにもお話ししましたが、大導入、歴史の最初の授業の導入のときに、教科書の表紙を見て、これからこんな感じで授業を進めていくと説明をするときには、表紙をめくったところからスタートすると思います。歴史というのはこんな授業だというふうにするときに、それぞれの教科書が非常に特徴ある内容を示しています。ある教科書については、小学校のときに習った歴史上の人物が30人ぐらい、写真や絵で載っているものもあり、あるものについては、これから習う歴史のいろいろな写真等が載っていて、細かい文章が載っているものもあります。あるものについては、縄文土器があつて、能舞台の様子、本当に大きい写真が点々と載っていると、そんな教科書もあります。

そういう中で、初めの一步の部分、第1時間目でどれが生徒にとって一番取りかかりやす

いのかなという、そういう観点で見て決めたというのがあります。

それから、それぞれの教科書、やはり地理と同じように、普通の授業の導入のところでは、この時間の主立った学習課題というのがどの教科書にも一番上のところに出ています。最後にまとめの部分ということで、この時間ではこういうところをまとめてみようというのが、1項目または2項目書いてあります。

そういう中で、我々が一番いいと思って選んだのは、世界地図が章の初めに載っていて、日本では鎌倉幕府が開かれたときに、イタリアではマルコポーロが日本に来ようとしていた、そういう地図が各章に入っている教科書がありました。新宿区の実情を考えると、そういう教科書のほうが、日本と世界を見る上ではとてもいいのではないかなと考えました。

ほかの教科書についてもそれなりに工夫もしてありますし、分かりやすいもの、あるいは写真の大きさ等についてもいろいろ工夫してあるし、まとめの部分についてもとても工夫してありますけれども、我々としては、世界地図の中で日本の歴史を見るという、そういう観点が入っているというのがすごく大切ではないか。世界の歴史は、並行してやりますが、なかなか結びつかなくて、そういったものを考えさせたり、視覚で、このころこれがあったんだというのが分かるというのはとてもいいのではないかということ、そういう観点から選ばせていただきました。

○**今野委員** 近代の部分で、大きなくくりが、2つのくくりになっているのと3つのくくりになっているのがあります。教える場合にはそのことは、どっちがいいというようなことはあるのでしょうか。一般には章立てが多いほうが学習しやすい、あるいは教えやすいのかなとも思いますけれども、実際にはいかがでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** 各教科書によって時代の切れ目というのが微妙に違っていて、私どももこの1週間ぐらいは、教科書を同じ部分でどう比較しようかと思いましたが、やはり微妙に教科書によって違っていて、ここで切れてしまうのかというようなところ、流れがあって文化が入って、次まで文化が入っていてというのもあれば、2ページにわたって文化だけというものもあるので、全く同じところにくっっているというのは、ほとんどないと思います。

また、近代のところの切れ目というのも、やはり教科書によって微妙に違ってはいますが、教えるに当たってはその部分まで、まとめの部分がありますから、教えるに当たってはそれほど大きな困難の点はないと思います。基本的には教科書の流れに沿って教えていき、まとめの部分のところではまとめをするという流れでやりますので、切れ目のところがもう少

し長くても、それほど大きな支障はないと感じております。

○羽原委員長 教科書自体、表記自体ではないのですが、教える上で参考に伺います。

僕は大学で10年間、近現代史の授業をやっていたものですから、これは難しいなど、あえて難しいところを伺いたい。教出と東京書籍の228ページ、写真です。「軍国主義の敗北」のタイトルの上に、米軍が沖縄の壕に対して火炎放射器を向けている。これが教育出版。それから東書のほうは、下のところに米兵に投降した母子。これは実態からすると、火炎放射器を向けた被害者のほうがケースとしては多いし、また沖縄的に言えば、この写真のほうがより現実的という面があります。ただ中学生にとって、米軍の優しさというところに目を向けて、事例は少ないにしても、そちらの穏やかなほうがいい、残虐性を示さないほうがいいのか、それとも現実には現実、事実は事実としての教育をするか、その辺を歴史的分野の授業ではどう触れるのか、それが1つ。

もう一つ、やはり事実関係で、教出の207ページと東書の209ページ、ここに普通選挙の当時の有権者数が表示されております。それで、どちらも出典はないようです。それで、1925年の普通有権者数20.1%、それから普通選挙、1945年51.2%、この数字が違いますね。前段はいいのですが、東書と山川の日本史図録、それから日文と教出は19.8%、48.7%という、つまり出典が出ていなくて数値が異なる。大したことがないと言えば大したことはないけれども、普通選挙の有権者数が過半数を超えていたか超えていなかったかというのは、文章表記上でも異なってくる。その辺のデータのとり方、これまた教科書会社の問題ですが、こういう数字が何で食い違ったまま出るのか。教出では1冊の教科書だからこの数字を教えるわけだけでも、その辺の教科書自体のつくりというのはどうなのか。少しはみ出た話ですが、よく承知して伺います。

○社会科調査委員会委員長 後半のほうの数字が微妙に違うというものについては、ほかの分野でも、0.幾つ違うというのはどうしても出てくると思っています。ただ、51と48だと、過半数かそれ以下かというので、少し微妙なところですが、おおむね半分の国民が選挙権を得られたという形で教えていくと思っています。今、先生がおっしゃられたところというのは、実際に教えられていて気がついたところだと思います。実は資料集と教科書のほうが微妙に数字が違うという点がありますが、そのあたりについては、おおむね60%台、40%超えというような形で伝えていくというのが実態になっています。

それから、先ほどの写真の捉え方ですけれども、私が沖縄あたりの授業をするときには、そういう写真、飛び降りている感じのものなどが幾つかあったり、あるいは火炎放射器を向

けていると、これが実態なんだと。ただ、実際には救助されて、我々のときには白旗の少女、あの写真が教科書に使われていたと思いますけれども、あれはどちらかというと、白旗を揚げたらアメリカ軍が助けてくれたと、そういう捉え方もありますが、実際には、補助のプリントを使って文章で読み取らせるということを実態としてはやっています。写真がどちらの写真であったとしても、実際としてはこういう流れがあったということで客観的に伝えていくというのが、授業のやり方だということで、御理解いただければと思います。

○菊池委員 先ほどの続きで申し訳ないですけれども、先ほど、地理で領土問題について、1年生の終わりか2年生で触れたと思います。その後、歴史でまたその問題が出てくると。これを教えるのは何年生になりますか。

○社会科調査委員会委員長 基本的には、2年生の歴史の最後のほうのページで触れているケースが多いです。どちらかというと現代の問題、要するに公民につなげるための部分という形で、領土についてはこういうふうに現在確定されてきている、要するに戦後一時、接收された部分もあるけれども、それが戻ってきた、1972年、沖縄が戻りました、小笠原諸島が戻りましたというような中で、現在の領土はこうなっているという形で、歴史の最後のほうでそれに触れるという形になっています。

実際にはもう一つ、江戸が終わって明治に入り、外国との交渉で国の境はこうになっていると。特に北方領土あたりの問題については、当時のロシアとの間でこういう交渉が行われてというのは、これも触れる程度ですけれども、その時点で出ています。最後に現代史の中で、領土はこうなっているということで、やはり歴史の中では出てくるという、そういうつくりです。

○菊池委員 歴史の流れの中でこうなっているということですよ。事実を淡々とお示しになるという、公平な、内容を拝見しましたけれども、おおむね私が考えていることなのかなとは思いましたが、その辺の触れ方が難しいのかなと思いました。今いろいろな意見がある中で、子どもたちがどのような情報を教科書から得て、先生がそれに対してどのように向き合っていくかというのが非常に難しいのかなと思ひまして、事実であろうことを淡々と触れていくという勇気というか、指導なのかなと思ひました。ありがとうございました。

○社会科調査委員会委員長 領土問題に関しては、それこそ本当に淡々と、今回の平成26年1月の時点で追記という形で学習指導要領に入りましたので、私は以前から、尖閣についても竹島についても授業の中で触れてはいましたが、その触れ方について、竹島については現在、韓国との関係がありますが、要するに日本の領土であると、明確にこれは示す。尖閣につい

ては日本の領土であると。なおかつ現在実効支配を日本はしていて、中国から言ってくることもあるけれども、それは違うというような形で、学習指導要領の改訂にも書いてありますので、淡々とそのあたりは示していくと。感情論とかそういうことはもちろんなしでということで、授業の中で示していくという形になると思います。

○**松尾委員** 先ほどの御説明で、日本文教出版の教科書だと思いますが、各章の初めに世界の図が載っていて、日本でこれから学ぶ内容が起こるころ、世界ではどのようなようになっていたということが大きく出ていて、説明が分かりやすいということでございました。これは大人というか、もう既に勉強していろいろなことを知っている者にとっては、この図を見て、確かにこの時代、世界はこうだったんだなと思うと思うのですが、まだ余り世界史について詳しく知らない子どもから見て、これを見て果たしてそういうふうに分かりやすいと感じるのかどうか、僕は少々疑問に思いますが、いかがでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** それぞれの章で本当にワンポイントで、元寇のときにマルコポーロがいて、インカの儀式用の黄金のナイフがあつてと、本当に簡単なものです。日本のこのときに世界はどんな感じだったかというものを捉えるという視点は、私もずっと歴史は教えてきましたが、日本でこれをやったとき世界ではというと、同時に教えるのではなく、日本の歴史をしばらく教えて、その後少し遅れて世界の歴史をやるものですから、これとこれが実は近いとか、そういうことはなかなか捉えられない。全部を細かく捉える必要はないのですが、おおむねこんな感じのことがあったということをつえさせるには、この世界地図を見て、この辺でこんなことがという程度で大きな流れをつかむという意味では、私は意味があるのではないかなと考えておりました。

○**松尾委員** そういうことであれば、冒頭よりも最後のまとめのところに世界の様子というのが鳥瞰できるような図があるほうが、教科書のつくりとして僕は望ましいと思います。

それから、章の切れ目と先ほどありましたけれども、これについても、世界とのつながりというのは非常に重要です。学ぶ対象は、日本の歴史を世界との関係で学ぶということだと思いますので、章の分かれ目として、日本の歴史の大きな転換点に当たるところが章の切れ目になっていて、なぜそこで章が分かれたのか、どうしてそこで日本の大きな転換点があったのかというところで見れば、世界との大きなつながりがありますから、それを最後のところで、あるいはまとめのところでしっかり押さえていくというほうが、子どもにとっては学びやすいのではないかなと思います。

それと、先生の御説明ですと、教員が指導するときに教えやすいということを主に念頭に

置かれていたように私は印象を受けましたが、一方で、自学自習の部分も当然出てきます。授業の中で教科書を使う、もちろん一番メインのところはそうかもしれませんが、授業が終わった後、もう一度通読して勉強するとか、あるいは学校を病気で休みましたと、そのときに自分で復習する、あるいは先に進んだことに関心があるから予習する、そういう自学自習の面から見ても、どの教科書が子どもたちにとってよいかということを判断していかないといけないと思うのですが、そういった観点から先生は各教科書についてどのようにお考えでしょうか。

○**社会科調査委員会委員長** 調査委員会の基本が、分かりやすく取りかかりやすい教科書ということで、資料についても、当然、興味のある子はどんどん、資料集も使ったりもしますし、授業中にプリントを配って、先ほど言ったような文章によるものというのでも配ります。ただ、そうなれば当然、授業中触れられないところもある。詳しく最後まで読めない、あるいはこういうのもあるから興味のある子は読んでおいてごらんというような形をとりますが、やはり写真にしても図にしても最低限のところを押さえている。なおかつ、自習で読む場合は説明が多くあったほうが良いと思いますが、我々が授業を展開する上では、むしろ説明がないほうが、これって何だろうということを考えさせ、その答えについて授業でやっていく。これにはこういう意味があるというふうにやっていく上では、余り細かい説明がなくて、その中で先生が授業中に説明をしたり、あるいは資料集で調べて自分たちでその答えを導き出す、そのような教科書が一番いいのではないかとこの観点で選んでいます。

○**羽原委員長** 学び舎の歴史教科書、これは従来の教科書と違う面白さというか、庶民型の視点から書いているが、その点では非常にユニークかなと。面白いと思いましたが、ただ教科書という点だと資料の不足とか、総合的に見たバランスとか、まだ工夫が要ると思います。いずれ市販されるようなことを言っていますから、その場合には大人にとっては面白い本かなと思います。

それから、調査委員会の中で、評価は余り高くなかった自由社、育鵬社の教科書について、何か御論議はございましたか。

○**社会科調査委員会委員長** いずれの教科書についても、調査委員で見まして、先ほどのベースの分かりやすく取りかかりやすいという基本姿勢の中では、少し外れるかと思えます。学び舎は本年度初めて出ましたので、なかなか面白いのではないかという話は出ました。ただ、こちらのほうで意図するのと少しずれてきてしまうようなところもあり、これについては今回は外れました。先ほど先生がおっしゃったとおり、もう少し精査してつくっていくと読み

物としては面白いという、そのような議論は出ていましたけれども、教科書としてこれを使ってというのは、まだ今の段階では厳しいのではないかという話が実際の話し合いの中では出ていました。

○羽原委員長 もう2者についてもコメントいただければ。アンケートによると関心の高い教科書ではありますので、いろんな意味で。

○社会科調査委員会委員長 自由社と育鵬社については、前回のときも既に出ていました。前回のときに比べて、見やすさや内容についてもかなり精査されていて、前よりも進んできたということは話題にはなりましたが、やはり先ほどの学び舎と同じように、一般的に教える教科書として、ほとんどはクリアしていますが、一般的な社会科の歴史の教科書として使うには、少し使いにくいところもあるということで、この2つについては今回は見送るという話が出ておりました。

○羽原委員長 ありがとうございます。

よろしいでしょうか。

それでは、御意見、御質問等、終わりましたようですので、次の社会（公民的分野）について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等と、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○社会科調査委員会委員長 続きまして、公民の目標については、個人の尊厳と人権の尊重の意義、特に自由・権利と責任・義務の関係を広い視野から正しく認識させ、民主主義に関する理解を深めるとともに、国民主権を担う公民として必要な基礎的教養を培う、というのが公民の目標になります。

先ほどから申していますが、調査委員会では、分かりやすく取りかかやすいということを念頭に置いての選定になりますが、公民は3年生になっての教科となります。基本的に中学校に入って地理を120時間、歴史を130時間、1・2年生で行った上で、公民の授業で仕上げることになりますので、分かりやすく取りかかやすいというはベースにあるんですが、2年間の中でそれなりに力をつけてきて、より公民として、社会人になる者も中にはいるわけですから、そういう力をつけられるような視点で選定しようということで、調査委員会では公民の教科書を選定してまいりました。

以上です。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御意見、御質問等ございましたらどうぞ。

○松尾委員 公民につきまして、具体的に授業の中で教科書をどんなふうに使っていくのかを教えてくださいたいと思います。

○社会科調査委員会委員長 先ほどから言っていますとおり、社会科の授業全般に、かつては、例えば日本国憲法を学ぶといえば、教科書を見ながら、それに沿って、板書を書き、補足の説明をするということになっていきます。基本的にはまず導入の部分で、日本国憲法の中で国民主権をやるといったようなことになれば、まず国会の場面を実物投影機で出すとか、天皇陛下が映っている写真を出していくとか、そのような形から導入として始めます。きょうはこのあたりのことを勉強していくけれども、何をやっていくのかと思うかというような感じから始まって、改めて教科書を開いてみよう、きょうは国民主権と天皇の地位という、この分野についてやっていくよと。ここのところの課題が書いてありますので、そここのところまでの確認をするように、教科書を見ながら授業を進めていきます。その中で、かつては、国民主権ではなかったんだろうかといったような意見を出させたり、歴史的な分野を振り返り、大日本帝国憲法という中で、その中では国民についてはどのように書いてあったのか、あるいは天皇についてはどのように書いてあったのかというような形で議論を深めながら、あるいは話し合いの中で、どこが違ってきたのかということを進めながら、また教科書に戻ってそれを確認し、話し合ったり意見を出したり、時々教科書のところの資料等を見て確認して、板書でまとめていくという基本パターンで進めていくのが公民の授業です。

○羽原委員長 全体に教科書を見ていて、教科書編集の段階には十分間に合っていなかったかもしれないのですが、18歳の選挙権、この点、当時触れ切れなかったのかなと思います。昔の社会的に教えるという教科書になっているが、18歳の選挙権というのは相当身近になるわけですから、もう少し表現とか表記とか、全般の教科書が少し物足りない。もう少し身近なイメージをもってもらえる工夫が教科書にはあるべきではないかなと。特に公民の主たるテーマだと思いますが、これは感想にすぎませんが、そういう印象がありました。

○社会科調査委員会委員長 今は校長になったので授業はしていませんけれども、授業をやる際には、公民の教科書は常に3年、4年遅れています。写真についても、当時はタイムリーなものだけでも、教科書で実際に授業をしたときには、これは少し古いなというものになってしまうので、私が授業をやるときには、裁判についてやるのであれば、きのう出た判決の、こんなのテレビでやっていたよね、きょうのニュース、新聞にこういうふうに出ているよと、そういう扱いでやっていきます。

選挙権についてやる時も、この教科書では、この時点ではまだ法案は通っていませんで

したから、18歳選挙権という話が出ないのですが、当然、授業のときには、教科書には20歳からとなっているけれども、これでいいのかという振りから始めます。そこから、生徒と知ってる、18歳だよというような、そんなやりとりをしながら、公民というのは今現在、きょう何がある、そのバックボーンというのはこういうことになっているというのを明らかにしていくのが授業だと思っています。そういう展開で授業を進めていくために、我々で選定した教科書、これが使いやすいのではないかと、そういう視点で見えています。

○**今野委員** 公民の場合には特に、身近な問題に即して子どもたちに考えさせるということがとても大切だと思うのですが、そういう意味で、どの教科書も配慮されていると思います。一連の教科書の中で、特にそういう観点から編集されているなというような教科書あるいはそういう例を教えていただければと思います。

○**社会科調査委員会委員長** 公民についても、どの教科書も工夫がしてあり、実際に裁判員裁判でこんな体験をしたというようなことが、囲み記事などで載っていたりします。あるいは今回の公民の教科書は、どのように物事が決まっていくのかというような、単に多数決で何でも決めていいのかというテーマで出ているところもあります。それぞれの教科書がそのような形で工夫していて、これが特によば抜けて優れているというのではないですが、とてもよく工夫していると。全体で見て、どの教科書にも、特に話し合いとかディベートとか、そういうような点、多数決原理について、より深く細かく示されているのかなと感じています。

○**古笛委員** 今のことにも関連しますが、教科書はやはり、政治・経済、それから国際社会を理解してもらいたいというのがありますが、それを通して自分たちの学校、家庭、地域社会、国、世界的な規模で考えたときのコミュニティーにおける自分の役割というものも考えていただけるような形になればいいかなと思っていました。その意味で、「対立と合意」とか「効率と公正」という言葉が出てきていることについてはすごく感心して、それぞれの教科書が工夫されているなと思った次第です。

ただ、微妙なところで、現在使われている教科書よりも違った教科書のほうがいい評価が、AとBとで分かれています。そこは何か決め手はあったのでしょうか。通常だと現行のものが一番いいのかなと思いました。

○**社会科調査委員会委員長** 基本的には、今回の調査委員のメンバーは、今使っている教科書だからとかというのは一切なしに、分かりやすく取りかかりやすい、その視点から見ている。特に3年生については、1・2年生ではすんなり分かりやすく、取りかかりやすいと

いう視点から見ていましたが、3年生の公民というのは、3年でやるものなので、1・2年生のベースがあり、より高度なものでさらに深く、そのようなところを考えています。

特別に支援を要する生徒にしても、1・2年生の、特に1年生のころは支援がすごく必要ですけれども、2年間の中で社会の地理、歴史の授業もやるし、そういう中で全体として落ちついてくる生徒が多いです。3年になると、さすが3年生になったという形で、それを踏まえて公民としての授業、これはより高度なものをしていくことができる。そのために我々が選んだ教科書を選定したという、そんな流れがあるので、今使っているからもう一回使おうというような感じではなく、全くさらで考えて、そういう視点から考えた結果が我々の選定した教科書ということになります。

○**教育長** 前の歴史も多分そうでしょうけれども、新宿区の特徴として、外国籍の、または外国にルーツをもつ、関係者に外国籍の人がいるというのが多いと思います。その中で、国際社会と日本の関係というのが、それこそ現在進行形の問題もたくさんあると思いますけれども、その中で、この教科書はこういう点で配慮していて、すごく教えやすい、子どもたちが取りかかりやすいという点で、何か具体的にあれば教えていただきたいと思います。

○**社会科調査委員会委員長** 初めの1時間目の話ばかりで申しわけないのですが、やはり公民も大導入というのがあります。公民の授業は、地理・歴史の授業が終わり、3年生になって5月中旬から6月ぐらいになると思いますが、今度は公民という授業をやりますと。5月中旬ぐらいに公民の教科書を持ってきて、地理と歴史とどう違うのかというと、先ほども言ったとおりですが、公民の表紙を見て、公民とは何なのかという話になり、1ページ目をめくるという中で、公民というのはこんな感じの授業をやっていくんだよという、そのところがまず1つ、我々の選んだ教科書は話が非常にやりやすいとまず感じました。

この1時間目の授業で、地理と歴史の関係について、本当に少ししか載っていないのですが、こんなことをやったよね、こんなところをやったよね、これのバックボーンは何なんだということを公民という中では深めていくと。選挙のこととか政治とか経済のこと、そんなことをやっていくよという中で、大人としてのベースを得ていくのが公民の授業だよというように形で持っていく。そういう中で、1時間目のところ、我々の選んだ教科書が一番印象的に載っていて説明がしやすい。いよいよ教科書に入っていくという段になって、内容的には、例えば取りかかりやすいという点では、ただの絵で始まる1時間目の授業、あるいは2時間目に相当する授業というのがあります。これはかつて公民ですごく流行って、まちがあつて、そこにあなたが店をつくるとしたら、どこのポイントに店をつくりたいなも

のをみんなで話し合うという、それをさらに発展型にさせているのが今の公民の教科書です。そういった意味では、単に知識を衆議院の定数は何人で参議院は何人と教えても、数字が変わってしまうので、そういうことで取りかかりやすいのは、我々の選んだ、あるいは先生方もそれを選んでいるかもしれませんが、その教科書が一番入りやすいのではないかなと感じた一番のポイントです。

内容的には、国際社会でということもありますが、外国籍の生徒も興味をもつように、外国で活躍する日本人あるいは海外で活躍する日本人、そんなことを取り上げているという点では、それぞれの生徒たちにとっても興味を持てるようなものが前のほうに来ている、そんなふう感じております。

以上です。

○菊池委員 公民というのは私の子どもころにはなかったもので、よく分からないというか、一番苦手な分野というか、社会科が嫌いになった最大の理由みたいなものです。しかし、憲法がすごく取り沙汰されているなか、憲法ってとても大切なのに何で今まで余りよく知らなかったのかと、今さらながら思っています。憲法というのは権力者を制限して国民を守るためのものであるということ、今さらながら再認識しました。子どもたちに等しくいろいろなことを教えることももちろん必要だと思いますが、教科書を読んでいると、憲法の部分が少し希薄なような気がします。日本国憲法を分かりやすく子どもたちに伝えてもらうことが、公民の最も大きなテーマなのかなと思ひまして、その辺を一言申し上げたいと思います。

○社会科調査委員会委員長 日本国憲法については、もちろん歴史の中でも触れています。歴史の中では、1889年、大日本帝国憲法ができましたというところは、結構深く、第1章の天皇の地位についてというのも触れています。その後、1946年11月3日に憲法が大きく改正され、3つの柱で新しい憲法が制定されたという話。それを受けて、公民ではその3つの柱をベースにして、国民主権と平和主義と基本的人権の尊重を、関連するところをできるだけ触れながら教えているというところ。各教科書ともそうですが、憲法の前文については資料として、全ての文章を巻末の辺りに載せているという形になります。これも興味のある生徒は、今、国会で議論になっているのはここだというのは、そこで調べることもできます。授業としては、これから日本国憲法を勉強していくに当たっては、どれだけ分厚いものだと思うかと聞くと、生徒は六法全書ぐらいと答えます。そのようなイメージから、実際調べてみて、教科書の一番後ろ、ここからここまでで、これだけの分量だよというところから始まるのが憲法の学習です。生徒には、そんなに恐れることではないぞと言って、その骨子を学

んでいくんだよということで進めていく、そんな形で進めています。

○菊池委員 ぜひ憲法は興味をもてるようにしていただきたいなと思います。ありがとうございました。

○松尾委員 社会科全般についてお伺いしたいのですが、先ほどから委員長のお話を聞いていると、さすがベテランの社会科の先生で、話もとても分かりやすいし、中学生のころ先生のような社会の先生に習いたかったと思うすばらしい御説明でした。先生のような先生が教えてくだされば、興味をもてる最低限のことが書いてある、そんな教科書でいいと思います。

しかし、今、新宿区は若い先生が多いと思います。経験が少ない若い先生は、多分委員長のようにはいかないと思います。もちろん、若い先生もしっかり頑張って授業をされていると思います。そこを疑っているわけではありません。ただ、幾ら頑張っても経験が少ないということから、教えるのは中学生ですから、先生がこういうふうに言ったら向こうがどう反応する、そこまでは、それなりの経験を積まないとわかってこないし、うまい教室づくりというのはできないと思います。

そういう中で、果たして最小限のことが押さえられている教科書で大丈夫なのでしょうか。僕はそこが少し心配です。だから、先生が口下手でうまく言えなかった、まだ慣れていなくてうまく言えなかった、それでもしっかりと子どもをフォローできるような、そんな教科書のほうが、今の新宿区の現状ではいいのではないかと、僕はそう思いますけれども、いかがでしょうか。

○社会科調査委員会委員長 実際に若手の先生が増えています。現在、20数名の中学校の社会科の教員がいますが、50代過ぎが10人程度、20代から30代ぐらいが10人程度というような割合になっています。あと何年かすると、50代の方々が退職していく形になる状況です。私も、新規採用時から社会科の授業をしてきましたが、今、新たに社会の先生になった方は、とても勉強していると思います。そういう中で、説明が多く書いてあるような教科書、社会科について習熟度の高い生徒は、それを見ただけで、分かると思いますけれども、先ほど言った社会科に力のない生徒は、ポイントを押さえるというのがいいのではないのでしょうか。

もう一つ、若い先生には勉強してもらわなければいけないと思っています。授業の仕方にしても、少ない資料の中で何を伝えるのか、それがとても大切なことで、それを助けるためにも、説明がやたらに多くある教科書よりも、むしろシンプルなもので、分からなかったら自分で調べるといのが大切だと思っています。私もそうでしたけれども、歴史の授業をしていても全ての時代に精通しているわけではないので、私が授業をしていたころは、プリン

トをつくって授業案をつくって、板書計画をつくってと、50分の授業をするのに最低でも10時間くらいはかかっていました。新規採用時から6年間はそのようなことをしていましたので、そういうものを積み上げていい授業をしていく。そのためにも、説明が多くある教科書よりも、むしろシンプルで、それぞれの先生が、これはどういう意味なのか、どのようにとれるのかと、勉強するきっかけになったらいいのではないかなという思いもあって、今回の選定となっていると考えていただければと思っています。

○羽原委員長 僕も公民の授業というのは受けたことはありませんが、日文の扉の夜の地球の写真、これは公民の導入としては、日本の国内の問題とは少し違うが、国際関係を見ていく上で、文明文化の発展度合いが電気によって示される地図となっています。この導入部で公民とは何かという説明が入っていくのは、非常に関心を引き覚まされるかなと思います。

全体にどの教科書ということではないのですが、地球温暖化はほかの授業でもやるかもしれませんが、国際関係のまとめ方というのは非常に難しいなど。教科書によって、網羅的に扱うわけですが、濃淡があり、核とか軍縮とかに丁寧に触れているかとか、扱い方の違いがあります。全体でいうと、日本と国際社会とのかかわりの表記などは、どの教科書ももう少し工夫があってもいいのではないかなと。つまり、時事的なトピックスに触れていくことを警戒しているのか、状況が変化するから余り突っ込めないのか、その辺は教科書をつくる方の意思が分かりませんが、もう少し工夫があったほうがいいかなと、僕はこれを通覧して思いました。

それで、言いたいことは、歴史、公民、地理、これだけの多様な授業をこの教科書を使ってどこまでこなせるのか。カリキュラムはこなせるようになっていますが、現実の教室で本当にこなされているのか。つまり、中学校の社会科は世界史も含めて明治維新辺りで大体終わって、その後は年をとってから大いに関心をもつというぐらいで、教科書がこんなに豊富にたくさんものがある。しかもある部分ずつ重なり合っているということで、本当にこれでこなせるのかなと。縄文時代や弥生時代に生きているわけではないから、もう少しウエイトが近現代にいかなければならないかなと素朴に思いましたが、そのあたりはいかがでしょうか。

○社会科調査委員会委員長 これは多分、昔の進め方だとそのようになります。ですが、ここに私が採用4年目に指導していた生徒のノートがあります。非常にいいノートでしたので、卒業記念にその生徒からもらったものです。このノートでは、最後の授業がどこで終わっているかという、1972年の日中友好条約までで終わっています。今から30年前ですから、授

業時点の10年前ぐらいまでやっています。当時、昔ながらのチョーク1本だけで歴史をやっていく先生は、明治で終わっていたと思います。

しかし、時数の変更が行われ、今現在、歴史については、130時間で行うとなっていますが、そのほかにも少し余裕がありますので、本来であれば絶対終わるはずですが、現在、私も授業観察を行っていますけれども、3年生に入ってから歴史を一部やりますので、現代史のところも間違いなくやっています。ですので、現在の教科書は少し多そうに見えますけれども、時数がしっかりと設定されていますし、新宿区では授業時数の確保のために、夏休みも1週間短くなっていますので、確実に授業をしていけば、歴史であれば2ページ単位で1時間が進んでいきます。もちろん深く入りたいところもありますが、それを踏まえながら進めていって、なおかつ特設もやれる時間が入っていますから、現代史まで入れると考えています。

○羽原委員長 ぜひよろしくをお願いします。

ほかに、よろしいですか。

それでは、次に、地図について、学習指導要領の中での目標、教科の特性等と、調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて御説明ください。

○社会科調査委員会委員長 地図につきましては、先ほどの地理的分野の目標と同様ということになります。そういう中で、教科書と地図帳というのがペアで使われるものという形になります。

本調査委員会では、地理的分野の教科書を選定した先生方に中心になってもらい、地図帳の選定を行いました。基本的には、分かりやすく取りかかやすい地図帳ということで、地図帳については2者しかありませんので、見て使いやすく、教科書に合っているというような観点から選定しました。資料等についても分かりやすく、地図の色など先生方が見て、鮮明で教えやすい地図帳を選定したというのが調査委員会の結論になっております。

○羽原委員長 では、御質問、御意見等ございましたらどうぞ。

○松尾委員 同じ質問で恐縮ですが、地図帳は授業の中でどのような形で利用していくものでしょうか。

○社会科調査委員会委員長 地図帳は、例えば日本でいえば、福島について調べようといったとき、福島というのは日本全体の中ではどこの位置なのかというのを見るときに、主に使います。地図帳は、教科書よりも地図が大きいので、より鮮明で見やすい。地図帳は、先ほど地理とペアと言いましたけれども、それ以外にも歴史でも地図は使います。歴史上の出

来事、関ヶ原の合戦は歴史で教えますが、ほとんどの生徒は関ヶ原がどこにあるのか分からないです。歴史の教科書にも関ヶ原はこの辺と、部分地図は載っていますが、全体だとどこになるのか分からない。そのような中で、地理の学習をベースに使いますが、より大きく鮮明に使えるということで、全体の流れの中で見てみるときに、主に地図帳を使うと欲していただけだと思います。

○古笛委員 今、先生がおっしゃったとおり、私も昔、なれ親しんだ絵が目に入ってきたので、単純に地図といえばこれかなと強く感じました。多くの資料が載っていてすごく面白いなと感じました。

特に感動したのは、江戸のところでは柏木、淀橋なども登場するし、それから霞が関の官庁街の案内もしてくれているというところで、すごく面白いなと思いました。実際には、授業で全ての資料を見ることはないと思いますが、こういった資料はたくさんあることで問題となるようなことはありますか。たくさん資料があるほうがいいのか、そんなに要らないといったところはいかがでしょうか。

○社会科調査委員会委員長 教科書のほうはむしろ適度な量のほうがいいのですが、地図帳については、余り小さいと困りますが、いろいろな意味で資料はたくさんあったほうがいいと私は感じています。この資料を全て見ていくと、それだけで多分3時間は地理の時間を使わないといけないと思います。

そのため、ここの資料を見てと言って、その隣の資料は興味のある子を見るかもしれませんが、飛ばしてしまうようになります。興味のある子は、このようになっているのかと、幾らでも地理に関して興味を持てば調べられる。最低限押さえるところについては大きい地図で、北海道のこの部分、こんなふうになっているよと押さえる。そのため、資料が多くて困るということはないと感じています。

○教育長 地図帳の資料点数についてお聞きしたいと思います。具体的には、図録などが何点あるのか比較はされましたか。

○社会科調査委員会委員長 基本図については東書が45点で帝国が56点、資料については東書が247点で帝国が268点、世界の資料図については東書が119点で帝国が144点、日本の資料図については東書が127点で帝国が151点、グラフ・写真・図等については東書が383点で帝国が458点というのが東京都の調査結果です。全般に言うと帝国のほうが多いという形です。

○今野委員 帝国のほうでは、例えば110ページに、パノラマのような資料があります。これも写真なのかもしれませんが、いわゆる写真でもないし地図でもない。見やすいパノラマ

のような感じですがけれども、このような資料は子どもに指導するときには有効なんでしょうか。

○社会科調査委員会委員長 地理の授業にしても、歴史でも公民でもそうですけれども、生徒が関心をもつというのは、いろいろな角度から攻めていくということになると思います。この地図は、衛星画像を加工したのですが、富士山が2年前に世界遺産に指定されたという中で、興味・関心を引くために1つ載せてあると思います。

私がこれを使うのであれば、富士山が世界遺産になったのを知っているか、というような形で持っていくこととなります。そういう中で、実際、富士山を描いてと言えば、多分こんな感じで描けると思いますが、その周辺はどうなっているのかというような点で、この図はとても使いやすいと思います。

○羽原委員長 よろしいですか。

ほかに御意見がなければ、本日予定していた種目ごとの学習指導要領の中での目標、教科の特性等について、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑は終了いたします。

各教科の委員長先生、長時間にわたってありがとうございました。

では、4時15分まで休憩したいと思いますので、よろしくお願いいたします。

午後 4時02分休憩

午後 4時15分再開

○羽原委員長 それでは、再開して協議を続けます。

最初に、審議委員のほうから御発言を求められておりますので、どうぞ。

○審議委員会委員 審議委員会委員の小林です。

社会科の御質疑の中で、補足説明がありますので、私からお話をさせていただきます。

社会科の公民の御質疑の中で、18歳選挙権の話題がございましたけれども、教科書会社に確認しましたところ、4月の配布の時点では表記を訂正していくということでしたので、ここで御紹介をさせていただきます。

○羽原委員長 ありがとうございました。

各教科の調査委員会における調査についての質疑は終了しておりますので、ただいまから、教科用図書審議委員会の調査結果について、審議委員会委員から種目ごとに説明を受けまして、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行います。

それでは、まず技術・家庭（技術分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような

審議、検討が行われたのか、御説明をお願いします。

○審議委員会委員 審議委員、中野でございます。

それでは、技術・家庭（技術分野）について私のほうから御説明申し上げます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、10校中7校がA評価でした。

調査委員会の調査の結果は、東書が総合評価でAでした。

審議委員会では東書をA評価といたしました。その理由、意見として、写真や図が大きく示され、名称や構造などが分かりやすく示されている、製作例や実験例が豊富で、製作や活動への意欲を引き出すものとなっている等が挙げられました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、教図については、序章に技術科のガイダンスを示し、学習することの意義等の理解を深める工夫がされている。開隆堂については、ページ最下部に豆知識が設けられており、学習内容と関連した文章が記され、生徒の興味・関心を喚起しているなどがよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書をAと評価いたしました。

以上でございます。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御質問、御意見等ございましたらどうぞ。

○松尾委員 各者それぞれ工夫されていて、それぞれ特徴があろうかと思えます。開隆堂の教科書は、20ページのところに錦帯橋の写真が載っておりまして、しかもなかなか見ない錦帯橋の裏側です。木組みで非常に緻密な構造をして、視覚的にも非常に美しい形をしている。それから教育図書のほうは、例えば18、19ですか、ページ番号がありませんが、第1章の冒頭です。ここに東京スカイツリーの写真と構造の解説の概略が載っています。どちらも巨大構造物ですので、これを技術の時間につくることは到底できませんが、その技術のすばらしさを感じさせるような、非常に夢のある写真が掲載されています。それに対して、東京書籍については、見た限りでは、こういう大がかりな建造物等についての大きな写真はなく、どちらかというと、身近なものについての写真が多く使われている印象を受けました。

それぞれ一長一短はあると思いますが、子どもたちに技術に対する関心を抱かせるような、技術の魅力というものを感じさせる写真の使い方という点から見て、私は開隆堂と教育図書

の2者はすばらしいと思いました。教科書全体を見て比較したときに、どのように評価されたのでしょうか。

○審議委員会委員 審議委員の中野でございます。

確かに委員御指摘のとおり、教育図書についてはスカイツリーの写真、それから開隆堂については錦帯橋のダイナミックな写真が載せられていて、これについては確かにすばらしいなど審議委員会でも出ておりました。

一方で、東書のほうは少し視点が変わりまして、巻末の④、をごらんください。「日本人が開発したり実用したりした製品」というページでございます。東京書籍については、日本人が開発をしたり実用化したという製品として9つのものを取り上げています。これは日本人として知っておくべきものということで、非常によいという意見が出されておりました。

○今野委員 東京書籍が写真・図なども大きく出ている一番いいとのことですが、確かに版が大きいので、とても見やすいし、本文の字も大きく、とても学びやすくいいと思いますが、逆に、大きいのがゆえに、机の上で使うときに不便だということはないのでしょうか。あるいは指導上の必要があったりするのでしょうか。

○審議委員会委員 技術科のような実技系の教科書については、確かに授業の1時間の中で作業の工程の説明をする、そしてその後に実技の作業的な学習を行うということで、そこが明確に分かれていることが一般的です。安全や注意すべき点について教科書を見ながら確実に押さえて学習をするためには、むしろ東京書籍の図版の大きな教科書のほうがよいのではないかという意見が出されておりました。

○古笛委員 東京書籍だけですけれども、最後に防災手帳がついています。これは実際に活用されているのでしょうか。

○審議委員会委員 防災手帳があるのは、東書の大きな特色だと審議委員会でも出ていました。これを活用して防災の意識を高めるということでは、非常に有効であると審議委員会の中で意見として出されました。

○羽原委員長 ほかにいかがですか。

○松尾委員 先ほど聞けばよかったのかもしれませんが、技術科と家庭科の関連ということで、植物を育てるとというのが技術のほうにございます。それで、トマトとか稲、ピーマンなどがあります。ジャガイモ、枝豆、園芸の花のほかにも、食べられるものが栽培されるようになっていきますけれども、これは後で聞いたほうがいいのかもありませんけれども、家庭科のほうとは何か関連があるのでしょうか。

○**審議委員会委員** これについては、家庭分野との関連も図りながらですが、あくまでも栽培ということで、技術分野の学習内容として掲載されています。

○**松尾委員** 技術科で栽培したものを家庭科で調理するというのも、原理的には可能な気もしますが、そういうことは余りないのでしょうか。

○**審議委員会委員** 実際に審議委員会の中で、そのようなお話があったわけではないので、ここからは先ほどの調査委員長の説明からということになります。先ほど調査委員長の説明の中でも、新宿区の場合は施設設備の問題があり、必ずしも教科書に示されたものをそのまま栽培することができるわけではないというお話があったと思います。その中で教科書を使いながら、可能なものを栽培していくということがあります。

また、昨今の様々な問題がありまして、学校でつくったものをそのまま食べられるかどうかについては、小学校も含めて家庭との連絡をしながら、家庭で判断するというのも出てきています。このあたりは、学校でつくったものを給食で食べるなど、そういったことに確実に結びつくというわけではないので、そこは配慮すべき事項だと思います。

○**羽原委員長** ほかに特に御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について各委員の御意見を確認したいと思います。

それでは、菊池委員から順次お願いいたします。

○**菊池委員** みんなとてもよくできていまして、それぞれ少しずつ特徴が違います。例えば東書の下部の説明なんか見ると、涙が出るほどうれしくなりますし、将来のデジタルの章については東書が最も詳しくて、将来、コンピューターを使いこなしたりする礎になるには、東書が一番よくできていると思いました。並び方も東書が非常に分かりやすいなと思いました。

ただし、開隆堂もまたすごく魅力的で、植物の栽培に関しては開隆堂が最も詳しく親切で、これからバイオの世界が非常に大切になってくるだろうと思われる中で、その分野も非常に重要なので、どっちに重きを置いているのかなというところで、甲乙つけがたい部分はありました。総合的に見やすさ、まとめ、それから未来志向の技術については、東書が一番優れていると判断しました。

○**今野委員** 学校現場での意見、それから調査委員会の意見、それらを総合した審議委員会の意見も東書ということで、東書に着目しながら比べてみました。先ほど申し上げましたけれども、版が大きいということもあって、非常に見やすい内容になっている、勉強しやすいだろうなと思いました。それから、大きいということで特に指導上問題があるわけではないということで、これは大きな要素だと思いました。

さらに、安全の面で、どの教科書も安全の事項については配慮されているという調査委員会の委員長のお話もありましたけれども、特に東書の場合には、最初のところでかなり詳しく安全についてまとめた記述があります。それがいいと思い、また、それだけではなく、個々の場面でも必要に応じて安全のチェックがなされておりますので、この点もいいと思いました。

それから、冒頭のところで、「考えてみよう」とか「やってみよう」とか、ポイントごとに電気のマークが入ったりして、勉強を進める上でとてもいい導入になっていると思いました。

それらを勘案して、東書がいいと判断された理由に納得できましたので、東書を推したいと思います。

○松尾委員 私も、これはなかなか甲乙つけがたくて、先ほどの質問の中で申しました教育図書の東京スカイツリーの仕組みのところ、これは本当に魅力的でいいなと思います。それ以外にも、実際の実習のところでも、特に教育図書の32ページに「正確なものづくり」という節がありまして、ここで「ものづくりに求められる正確性、正確につくるための3つの秘けつ」が書いてあり、正確につくることによって見栄えもよく、なおかつ強度も強いものができるとあります。適当に道具を使って適当にやればいいのではないと、やはり正確に、しっかりとしたものをつくることにメリットがあるということを生徒たちに教えようとしているところが感じられまして、大変すばらしいと思って非常に悩ましいところです。

非常に後ろ髪を引かれるところがありますが、やはり様々な面を総合的に判断して、特に学校調査で現場の先生方の御意見として東京書籍を推す声が多いと。また、調査委員会でも東京書籍の評価が高いということですので、個人的に非常に残念な気もいたしますが、子どもたちのことを考えて、東京書籍がよいと判断いたしました。

○古笛委員 私も、結論的には東京書籍でいいと思いました。

調査委員会も学校調査も審議委員会も、全て結論として東京書籍を推すということと、それから現在使っているというところで、私のほうはむしろ、先ほどの先生ではないですが、まっさらな目で、今のものを変えてほかのものにするだけの何か違いがあるかということで見ましたが、それほどのものはなかったと思いました。それと東京書籍は全体的に、今野委員もおっしゃられたとおり、安全ということが一番強調しているという気はしました。

特にコンピューター関係のところですけども、子どもたちは技能的にはコンピューターを大人以上に使いこなせていますが、便利という側面だけではなくて、それを使って加害者

にも被害者にもなり得るということをストレートに分かりやすく、イラストも入れて、何ページにもわたって解説しているところがいいと思いました。そして最後に防災手帳もあったので、そこに東京書籍の思いがあらわれているのかなというところもあり、東京書籍がいいと思いました。

○**教育長** 私も結論としては東京書籍がよろしいと思います。

特に、東京書籍は、植物を育てる上での記述が非常に細かいですね。170ページを見ると、トマトの健康状態、ミニトマトをつくと分かりますけれども、上にあるように、葉っぱが黄色くなったりしおれてきたりということがあります。子どもたちが実際にやってみると、こういう状態になってどうしようかと思う。そのときに、これは3要素、窒素、リン酸、カリウムのどれかが足りないという指摘がある。ピーマンも1番目の実は後々のことを考えて取ってしまうというような、本当に細かく作り方が提示してあって、これだけあれば、興味のある子どもはできるのではないかと思います。学校調査、それから調査委員会、審議委員会のそれぞれが東書ということですので、私も東書がよろしいと思います。

○**羽原委員長** 僕も、どちらもいいなと思っていますが、東書かなと思います。

というのは、基礎的な指導がしやすいのではないかと。つまり、東書のほうが、開隆堂、教育図書より各単元の膨らみがあるのかなという印象です。例えば匠の話、技術ですから、積み上げてきた方たちの話が少しですがある点もいいと思いますし、防災手帳もこのまま使えるなという気もしました。先ほどのような日本人の工夫ということも、ほかに触れていないわけではないでしょうが、まとめてみとなるほどなと思いましたので、僕も東書を支持したいと思います。

特になければ、今までの協議内容の確認をしたいと思います。

技術・家庭につきましては、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、東京書籍の「新しい技術・家庭 技術分野」を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○**羽原委員長** あくまでも候補で、最終的には、ほかの教科書ともども決定する場が持たれることになっております。

それでは進みます。

次に、技術・家庭（家庭分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明ください。

○審議委員会委員 審議委員、中野でございます。

技術・家庭（家庭分野）について御説明申し上げます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、10校中6校がA評価でした。

調査委員会調査の結果については、東書が総合評価でAでした。

審議委員会では、東書をA評価といたしました。その理由、意見等として、実習の工程が統一されて示してあり、生徒が学習を進める上で分かりやすい、実習例が多く掲載されており、取り上げている題材も多彩である等が挙げられました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、教図については、全国各地の郷土料理の紹介は写真だけでなく郷土料理の解説もつけられており、分かりやすい。開隆堂については、「話し合ってみよう」など言語活動を多く取り上げており、生徒の主体的な学習を促すことができるなどがよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書をAと評価いたしました。

以上でございます。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御質問、御意見等ございましたらどうぞ。

○教育長 これは全体に言える話ですが、家庭科の分野で料理の内容として、鯖のみそ煮やしょうが焼きなど、一般的な料理が取り上げられていますけれども、そのねらいを教えてください。

○審議委員会委員 審議委員会委員の小林です。

そもそも調理につきましては、学習指導要領に、題材として魚、肉、野菜といった、日常的によく用いられる食品を取り上げるように示されています。その中で、技能としては煮る、焼く、炒めるなど、加熱調理を行うということが示されています。各者がどのような料理を載せるかにつきましては、実際に学校現場の現状に基づいて多く取り上げられている事例や、それから、学校に調査をかけているようですが、例えば給食で取り上げられている、家庭でよく食べられている、生徒が好きである、そういったところから判断しているということです。

見開きの2ページにわたって示されている主題材は、実習で使う例でございます。そのほ

かの小さなものにつきましては、家庭学習や、先ほど調査委員長からも夏休みの宿題でというお話がありましたけれども、そういったときに生徒が参考になるように載せているということを確認しています。

○**教育長** 細かい話ですけれども、東京書籍と教育図書と開隆堂、それぞれ取り上げられているのが鯖のみそ煮としょうが焼き、同じように取り上げられていますが、東京書籍だけとても手間をかけています。家庭でこれだけ手間をかけるのかと思いますが、この、ひと手間かけるということはどのような精神からきていて、どのような教育的効果があるのでしょうか。

○**審議委員会委員** 審議委員会の中では、特に調理のページにつきましては、各者、調理手順が分かりやすいかというところで話題が出ました。

これは、今御質問いただいたことにお答えする前に補足しての説明になりますが、東京書籍におきましては、60ページにしょうが焼きが載っています。1、2、3、4、5、6の左から右に流す調理手順がどのようなお子さんにとっても分かりやすいと、そういった審議が行われたところでは。

これは技術科もそうですけれども、東京書籍についてはこういった統一した示し方をしているということを補足させていただきます。

実際に審議委員会では、7月7日の七夕の日に家庭分野については審議を行いました。私も家庭科は個人的に興味があったので、今使っている教科書とどのようなところが変わったのかということ調べてみました。実際に今も中学校では東京書籍の教科書を使っています、しょうが焼きも取り上げられています。実はしょうが焼きについては、調味液に10分間漬け置きして焼くという方法がとられていましたが、今回の教科書には、先ほど御質問のありましたように、先にお肉を焼いてから後でかけ入れるというような形になっていました。なぜこのような変更が行われたのかということ事前に教科書会社に確認したところ、先ほど寺島委員長からも話がありましたけれども、1時間で調理実習を終えるようできるだけ時間を短縮するためということでした。それと、漬け置いたことによって焦げやすくなるという意見が学校現場からあったため、時間を短縮すること、焦げにくくするという視点から、今回改めてやり方を変えたという説明がありました。

ただし、学校現場では、教科書のほかに資料集を教育委員会で購入して配布していますけれども、こちらの資料集には別の作り方についても紹介をしています。

調理は、地域によって、また、家庭によって異なっているものですので、私ども審議委員会としましても、子どもたちが各家庭の味を伝承していくということも家庭科の大切な要素

だと思っています。

学校にも、どのような形で家庭でのつくり方の違いなどを教えているかということを確認したところ、調理の計画を立てる段階で、教科書にはこのように書いてあるけれども、それぞれの家庭ではどのようにつくっているのかということについて意見交換することもあるようです。また、先ほど調査委員長からも話がありましたが、新宿区は食育に力を入れていきますので、夏休みの宿題などでも各家庭のつくり方などを紹介していくということがあって、このようなことを丁寧に行っていくことで、「教科書を教える」のではなく「教科書で教える」ということになります。教科書にはこう書いてあるけれども、各家庭はどうかという足がかりにもなるということで、若干つくり方は変わりましたが、そういった指導の仕方をしていけば、より教育的な効果は高まると考えていますので、紹介をさせていただきました。

○教育長 よく分かりました。

○松尾委員 先ほどの技術的分野のところ、安全性についての配慮が東京書籍が優れているということで、それが教科書の絞り込みの大きな根拠になっていました。家庭科についても安全性というのは非常に重要だと思っています。私には娘がおりますが、裁縫が好きで、よく家でいろいろなものをつくっています。自主的・自発的に何かつくるのが好きなようですが、作業しているのを見ていると非常に冷や冷やします。教科書を見ますと、教育図書ですと、206ページのところに安全につくるためにということで図が載っていて、針の扱い方ということで、「使い始める前と後に本数を確かめる」という注意事項があります。これは僕が子どものころ祖母が、「必ず始めるときと使い終わったらちゃんと数えるんだよ」と言っていたのを覚えていて、子どもにもちゃんと数えなさいと言っていますが、これに相当するものが東京書籍で見当たらなかったのですが、どこかに記載されていますか。

○教育指導課長 審議委員の横溝です。

東京書籍につきましては、針の本数ということではございませんけれども、例えば、156ページに布の裁ち方など布の扱い方の基礎技能という項目があります。この基礎技能の中で、様々な用具や道具の取り扱いの安全な方法を示すと同時に、「安全」という項目があり、こういうことについても生徒に指導できる工夫がしてあります。

○羽原委員長 ほかに御発言がありましたらどうぞ。

○古笛委員 今御指摘のあった、基礎技能のところですけども、大変分かりやすいと思いました。東京書籍は、版が大きいので文字も図も大きくて、私自身もミシンはしばらく使って

いないので、こういう手順だったなということが詳しく書かれているので、すごく分かりやすく感じました。

見開き2ページで他の教科書でも説明はされていますが、小さくて見づらい感じがあるかもしれないなと思いました。

東京書籍は、技術と同じですけれども、衛生面、安全面というのをすごく強調されているという印象がありました。

○審議委員会委員 審議委員の中野でございます。

古笛委員御指摘のとおり、東書の大きな特色として、例えば先ほど話題に出ましたしょうが焼きのところ、ページでいうと60ページでございます。ポイントを示してあるだけでなく、ページの右上、赤で囲んでいる衛生というところで、肉には寄生虫や細菌がいることもあるので、中までしっかり火を通すというところまで踏み込んで、生徒に注意喚起をしているところがすばらしいという意見が審議委員会に出ていました。

○羽原委員長 特に御質問ありませんでしたら、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

それでは、酒井教育長からお願いいたします。

○教育長 結論から申し上げまして、東京書籍でお願いしたいと思います。

それぞれの使い勝手等々含めて、なぜこのような取り扱いをしたかという御説明も審議委員会委員から明確にいただきましたので、家庭分野については東京書籍を推したいと思います。

○古笛委員 私も結論として東京書籍です。

調査委員会、学校調査、審議委員会全て意見が一致しているということと、現行使っていること。それから、技術との絡みで、技術も東京書籍は、男子2名、女子2名の4人の中学生と一緒に学習するという形で進められています。家庭分野のほうも同じメンバーと一緒にやっているという意味で、広い意味で男女ともに技術も家庭も頑張ろうという視点がすごく出ています。それから安全面、衛生面に対する配慮が一番分かりやすくストレートに出ているので、よろしいかと思いました。

○松尾委員 私としては、先ほどの針の安全性に関するところが非常に不満があって、確かに言われたページを見ますと、安全性についての注意喚起はありますが、針についての安全性の喚起は不十分だと思います。

それから、東京書籍のもので私はもう一つ不満があるのですが、150ページのところに、

これから小物をつくったりする、こういうものをつくるという写真が載っていますが、全般的に割とかわいらしいデザインのもので多くて、何となく女の子好みのようなデザインのものでかなり多くて、男の子が使ってみたくなるような、男の子っぽい格好いいデザインのもので余りない。他者と比べてみると、男の子でも好みそうなものが載っている教科書もあるので、そういうところが不満ですけれども、つくりとしては、安全性に関しても、注意すべき点というのが分かりやすくまとめられているというのは確かにそのとおりだし、図版が大きくて非常に見やすくなっています。また、学校の調査でも、調査委員会の調査でも、審議委員会の審議の結果でも、全て東京書籍がよいということですが、先ほど申したような点について、安全性についてもし抜けているところがあれば、例えば教育委員会としてそれを補足するような資料を作成して学校に配布する。それから、もし作品例に偏りがあるようであれば、誰もが興味を持てるような作品例を追加するといった措置を講ずるということ为前提として、私は東京書籍の教科書がよろしいと思います。

○今野委員 学校現場、調査委員会、審議委員会、全体が東書という結論でございます。私もそれが適当だと思います。

主な理由としては、やはり版が大きいので非常に見やすいということと、それから子どもたちが学習しやすい。先ほど説明がありましたように、調理などの場合には、左から順に番号が振ってあって、手順がとても分かりやすく表示されています。苦手な子どもでも、これを見ながら順番にやれば非常にやりやすいということで、いいと思いました。

それから、技術とも共通ですけれども、「考えてみよう」というポイントつきの指示が適宜いいところであるということも、勉強しやすい一因になっているのではないかなと思います。

○菊池委員 結論から申しますと、東京書籍でよろしいと思います。

先ほど松尾委員から御指摘があった安全面のことに関して言いますと、食の安全に関していえば、開隆堂の100ページ、101ページに、食中毒に注意しよう、安全に調理しようということがかなり大きなスペースを割いて、分かりやすく丁寧に書いてあるなと思いました。そして、持続可能な社会ということで、240ページに、先ほど委員長がおっしゃられたような、世界の夜の電気量を示す衛星写真も出ていまして、いろいろないい点があるなと思いました。

しかしながら、私が今回、家庭分野で一番興味を持ったのが幼児のことを取り扱っている場所です。赤ちゃんからの成長の過程を見ていくときに、大体同じようなことが書いてあるのですが、東京書籍のほうが非常に引きつける力があるし、分かりやすい。このように大き

くなってきたと改めて分かりやすいので、私はそこを一番のポイントとして東京書籍を推薦したいと思います。

○羽原委員長 僕も、学校調査あるいは調査委員会等の結論が抜群にAということを非常に尊重したいと思います。

実技の授業のテキストですから、文字がたくさんあるよりは、ぱっと見てぱっと分かる、それで身に付くという動作が必要なので、その意味で東書は使いやすいのではないかと思います。

それと、先ほども少し申し上げましたが、編集者に男性が半数ぐらいいるということ。つまり、写真やイラストで男の子と女の子がいればいいというものではなくて、教科書をつくる時に男性の目も入っていると。女性の視点と男性の視点は違うところがある。それをそれぞれの教科書をつくる時に持ち寄って、そこに生かされるということは、編集上非常に重要なことだと僕は思っています。ですから、イラストがあるからいいでしょうという問題を僕は提起しているのではなくて、女性中心型より、これから家事は男もやるという決意のもと、姿勢として、教科書会社にもう少し男性も重視していただければという希望を込めて、東書にしたいと思います。

今までの協議内容の確認をしたいと思います。

家庭分野については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、東京書籍「新しい技術・家庭 家庭分野」を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○羽原委員長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、社会（地理的分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いします。

○審議委員会委員 審議委員の中野でございます。

社会（地理的分野）について御説明申し上げます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは帝国で、10校中6校がA評価でございました。

調査委員会調査の結果としては、東書と帝国が総合評価でAでした。

審議委員会では、帝国をA評価といたしました。その理由、意見として、各章の導入は見開きで、写真が多く扱われており、視覚的に地域の特徴をつかむことができる、「学習をふ

り返ろう」では、基礎的・基本的な内容を確認したり説明したりすることで内容の定着を図ることができる等が挙げられました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、東書については、「地理スキル・アップ」は、資料の読み方等、基本的な技能を身につける上で効果的である。教出については、各単元の学習のまとめは、基礎的・基本的な内容の定着と表現力を高めるような課題が提示されている。日文については、現地の人の声が掲載されており、生活の様子を捉えさせるのに有益であるなどのよい点が挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった帝国をAと評価いたしました。

以上でございます。

○羽原委員長 説明が終わりました。

それでは、御質問、御意見等ございましたらどうぞ。

○古笛委員 意見になりますが、帝国書院にしてもほかの教科書にしても、本当に新しい最近の写真まで掲載されているというのはすごく驚きました。それから、子どもが取りかかりやすいように各者それぞれ工夫されていて、ブラジル・ワールドカップの写真が出てきたり、東京ガールズコレクションの写真が出てきたりと、本当に今っぽいということですのですごく感心しました。それぞれの教科書は本当に甲乙つけがたいと思いますが、迷ったのは帝国書院と東京書籍です。調査委員会ではいずれもAですが、審議委員会ではAとBに分かれた、そこに何か違いはあるのでしょうか。

○審議委員会委員 審議委員会でも甲乙つけがたいというところがありましたが、例えば、帝国書院の34ページをお開きください。帝国書院のほうの写真が大きく扱ってありまして、それは本区の実物投影機が全教室にあるという実態を考えたときに、これを提示して、子どもたちに見せるということは、分かりやすく見やすいのではないか、それが一因として挙げられております。

○羽原委員長 よろしいですか。

特に質問がございませんでしたら、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○教育長 結論から言って、学校側の調査と、それから調査委員会調査、審議委員会で結論を出している帝国の教科書を推したいと思います。

どれも甲乙つけがたいのですが、地図の記載等々丁寧な記載がされていると思います。その意味からも帝国を推したいと思います。

以上です。

○古笛委員 私も、迷いましたけれども、やはり学校調査で一番声の多かった帝国書院、現行のものが一番いいのかなと思いました。

先ほども少しお話しさせていただいたとおり、それぞれ工夫されてはいますが、写真がとても大きくて、それぞれの教科書の写真を見たとき、導入部分を見たとき、子どもたちが一番興味をもつのは、ワールドカップを知ってるかだとか、東京ガールズコレクションはどうだろうと、そのことをきっかけに話が進むのかなと思いましたので、帝国書院でよろしいかと思いました。

○松尾委員 これに関しましては、調査委員長長の御説明で、興味・関心を引くということが重要だという、これはもつともだと思います。

地理については、特になじみのない地域、先ほど調査委員長から説明がありましたけれども、知っているところではなくて知らないところについて、いろいろな資料から地理的な事情を考察して理解するということが重要だということです。そういったところに興味・関心をもって取り組んでみようという気持ちに子どもたちができるように、教科書はつくられているのが非常に望ましいのではないかと。その点でいきますと、帝国書院の写真の使われ方というのが、その地域の特徴的な写真が大きく出ていて、必要であれば実物投影機を使って教室で映すことができる。そして、関心をもってもらって、その地域でどんなことがあるのかということいろいろな考察に入っていこうということで、効率的にうまく授業が展開できるのではないかと思います。

そのほか総合的に判断しまして、帝国書院の教科書が優れていると思います。

○今野委員 帝国の場合に、学校現場がAで調査委員会もA、最終的に審議委員会でもAということですので、帝国で異存はありません。

それで、調査委員会のほうでは東書もAという判定になっていましたので、両方を比べてみました。私なりには、東京書籍も第1編の最初に地球の絵がどんと出てきて、世界全体を目に焼きつかせるということから始まって、とてもいいなと思いました。私の判定で分けたところですけども、帝国の場合には、それぞれの学習の項目の最初に、ねらいで、学習課題や確認しようということで、何をポイントとして勉強するのかというのがとても分かりやすく表示がされていると思います。また、振り返りのところもかなり大きな項目がとってあ

り、初めと終わりがとてもいいので、子どもたちには知識・理解が定着しやすいなと思いました。

逆に、東書の場合には、いろいろ議論があるかもしれませんが、まとめが同じように大きくありますが、誰々さんのまとめということで、かなり細かく案が出てきます。それは逆に言えば、自分が考えるときのヒントになるので、いい面でもありますが、どこを見てもかなり細かく出ているので、少し煩わしくて、自分なりにまとめたいというときには、かえって難しいのではという感じがしました。

そのようなことから、やはり帝国のほうがいいという皆さんの判断になったのかなと思ひまして、結論的に帝国を推したいということでございます。

○菊池委員 やはり私も迷ひまして、どちらもすばらしいと思ひました。客観的に見て、写真は明らかに帝国書院のほうが大きくて美しいなと思ひました。もう一つは、右下に書いてある、「確認しよう」、「説明しよう」など、それが的を射ていて、ただ視覚的に見てどうだということだけではなく、確認、説明と指導しやすいように構成されていると思ひました。この2点で帝国を推薦したいと思ひます。

○羽原委員長 僕は概して迷わず帝国書院だなと思ひました。

というのは、理屈ではなく、地理に興味をもつ、世界に興味をもつ、グローバルな世界に様々な風俗・習慣があり、食べ物があり、文化がある、それを最初のスタートはやはり写真が一番語りかけてくれる。興味をもった写真から調べたりいろいろ入っていくという意味で、帝国書院がいいなと。やはり餅は餅屋かなという、そういう選択であります。

今までの協議内容の確認をしたいと思ひます。

地理については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、帝国書院の「中学生の地理」を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○羽原委員長 それでは、そのように進めたいと思ひます。

次に、社会（歴史的分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○審議委員会委員 審議委員、中野でございます。

それでは、社会（歴史的分野）について、私のほうから御説明申し上げます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、10校中5校がA

評価でした。

調査委員会調査の結果としては、教出と日文が総合評価でAでした。

審議委員会では、教出をA評価といたしました。その理由、意見等として、本文横の用語解説や、中心資料に必要な応じて示されている「読み解こう」は、生徒の学習の参考になるとともに教師にとっても要点を押さえた指導ができる、また、学習のまとめとなる「ふりかえる」のコーナーでは、基礎的事項の確認と話し合い活動などの言語活動により毎時間のまとめを確実に行うことができる等が挙がりました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、東書については、これまで学習してきたことのまとめと次の時代の変化が捉えられる。清水については、近代史の学習では、戦争体験者のコメントを紹介するなどして、戦時中の様子を具体的に理解させようとする工夫が見られる。帝国については、単元末では、年表や地図を活用しながら、言語活動を通して学習した内容をまとめるように工夫されている。日文については、巻末の年表には、日本と外国とのつながりも分かりやすく表現されている。自由社については、各章に100字用語解説が設けられ、用語整理に役立つ。育鵬社については、「なでしこ日本史」「虫の目、鳥の目でみる」など、生徒の歴史への興味・関心を高める工夫がされている。学び舎については、版が大きく、フォントサイズも大きく読みやすいなどがよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、調査委員会評価でA評価であった教出をAと評価いたしました。

以上でございます。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御質問、御意見等ございましたらどうぞ。

○松尾委員 先ほどの調査委員長の説明によりますと、日本文教出版の教科書については、必要最小限のことが簡潔にまとめられていて、なおかつ、子どもたちの興味・関心を引きやすいという特徴があると。そういう観点からこの教科書に一番よい評価を与えたという趣旨のことをおっしゃってございましたけれども、この点については審議委員会ではどのように評価しますか。

○審議委員会委員 調査委員会の結果で両者ともA評価がついていて、それについて審議委員会でもなかなか甲乙つけがたいという意見がありました。審議委員会が出た一つの意見としては、例えば、教育出版の18ページをお開きください。先ほど畠山委員長からも、学習課題

というのがどの者も左上に書かれているという説明があったと思いますけれども、「エジプトはナイルの賜物」ということで、生徒がこれを見たときに、何だろうと興味を引かせるという意味で、非常に工夫がなされているという意見が出されていました。

それから、審議委員会の中ではもう一つ、畠山委員長から説明があったように、歴史が苦手な生徒に関しても、新宿区の特性を考えるとしっかり見ていかないといけない。そういう観点で見たときに、単元のまとめのところ、例えば、日本文教出版の44ページをごらんください。ここに「とらえよう！時代の転換」というものがございまして。左上の「とらえよう！時代の転換」ということで、「印や国名に着目して、古代日本の時代の転換を考えてみよう」というところがございまして、これが日本文教出版の大きな特色の一つで、時代の転換点を生徒に捉えさせるというところでございまして。これは確かに趣旨としては面白いのですが、習熟がゆっくりな生徒たちにとって少しハードルが高いのではないかという意見が出されておりました。

そこで、同じ単元の学習のまとめのページを見ていただきたいと思います。教出の50ページをお開きください。また、日本文教出版については56ページをお開きいただきたいと思います。学習のまとめのところで比較をしますと、日本文教出版についてはややハードルが高いかと。それぞれの文字の特徴を捉えて、それを生徒に書かせる、それから時代を考えさせるという、比較的ハードルの高い設問になっています。

一方、教出について見ますと、まずは時代、起こった出来事について確実に押さえ、2番目に人物とかかわりの深い事柄を下の図から探して結びつける。ここで基礎的・基本的な事項を確実に押さえた後に、51ページの四角4、四角5のところ、埴輪について、この違いについて、社会のどのような変化があらわれているかと、少しハードルの高い問題が設定されています。このように教出はステップを追って課題が設定されていますので、そちらのほうが生徒たちにとっては易しいのではないかというような結論に至りました。

以上でございます。

○審議委員会委員 審議委員会委員の小林でございます。

松尾委員の御質問の意図は、畠山委員長が、教師が教えるときに幅をもたせるためには、シンプルな教科書がよいというようなお話についてだと思いますので、私から補足をさせていただきます。

前提となる部分についてまずお話をさせていただきます。審議委員会でも、審議委員長から先日お話をさせていただいたように、全ての教科書について調査委員会、学校調査の結果

をもとに、そのよさを確認させていただきました。社会科の歴史分野については、審議に2日間もかかりましたが、その中では、特に調査委員会の評価が高かった、それから学校調査でも評価が高かった4者にある程度絞り込んで、さらに読み深めていくという作業を行ったところです。

実際に教科書に書かれている内容がシンプルであるという部分については、私たち審議委員会の視点としましては、どちらかというところと少し違う観点でした。畠山委員長からは、教師が10年かけて力量をつけていくのにはというお話もありましたけれども、現状は半分以上の教員が10年未満ということをつかえたときに、教師にとっても教えやすい教科書であるというところも重要な視点ではないかと思いました。もちろん、先輩から学びながら教師が力を付けていくということも大切ですが、子どもたちにとっては1年1年が大切なわけですから、そこで確実に教育が行われていくという点で、教科書の内容がどうかというところも視点とさせていただきます。

そういった意味で、審議委員会としては教育出版をA評価とさせていただきます。教育出版の68ページ、元寇の部分です。こちらが少し話題になりましたので、ここをもとに説明させていただきます。比較として、日文の72ページ、これも元寇のところの説明をさせていただきます。

それぞれ元寇のページでは、同じ蒙古襲来絵詞という代表的な資料をもとに、左側のページから学習が展開されるようになっています。教育出版の一番の特徴は、69ページの上、フクロウの絵の「読み解こう」というところです。社会科の学習の中では、中心の資料をもとに読み深めていくというところから学習を進めていきますが、「読み解こう」が教師にとっても生徒にとっても参考になるというものです。例えば、「読み解こう」では、このページについては4つの手順を追ってこの資料を読み解くという作業が明確に示されています。

一方で、日文については、日本軍と元軍、武器や戦い方を比べてみようというように示されています。実際にベテランの教師にとっては、「読み解こう」というところがなくても、恐らく同じような指導ができると思いますが、やはり若い先生方にとっては、「読み解こう」というような丁寧な記述があったほうがいいのではないかと。確かに広がりという部分では日文が捨てがたいかもしれませんが、今の新宿区の現状からすると、こういった丁寧な記述がよいのではないかと話がありましたのでご紹介させていただきます。

○羽原委員長 御質問、御意見をどうぞ。よろしいですか。

○古笛委員 それぞれ本当に、特に4冊ぐらい挙げていただいた教科書は、大人が見ても面白

く拝見しました。子どもが歴史を学ぶときに、過去のことということで後ろ向きに勉強するよりは、今まで何が起こったのかということを通じて、今を考えてもらい、そして将来を考えてもらいたいと思っています。それぞれの教科書で、将来に向けた視点、子どもたちに対するメッセージ的なもの、何冊か読んでいて、そういった思いを感じたところがありました。審議委員会のほうではそういった意見は何か出たのでしょうか。

○審議委員会委員 将来の視点というのは、先ほど調査委員長からも説明がありましたけれども、歴史の学習が3年生の前半まで続きまして、その後、公民に移っていくと。つまり、歴史の学習の後半というのは公民にどうつなげていくのかということも重要な視点になってきます。

実際に審議委員会の審議の最後の一言が、未来につながるという部分で非常に重要な一言だったので御紹介させていただきます。教育出版の教科書の表紙をごらんいただくと、「歴史」という言葉の下に「未来をひらく」というキーワードが載せられています。ここをごらんいただいた上で、最後の単元の260ページ、「未来をひらくために」というところです。審議委員会では、委員の校長先生から、この教科書自体が公民につながる、未来につながるという部分をととても大切にしたい教科書であるということがまず挙げられていました。

そして、もう一つ御紹介をさせていただきたいのですが、これは思いなどについて触れるものではないのですが、領土のことについて触れられたページ、256ページを御紹介させていただきます。

実は、今の「未来をひらく」という話題の直前に話し合っていたのが、256ページの「隣国と向き合うために」という部分でございます。先ほど調査委員長からも、領土の問題については、平成26年度の学習指導要領の追記によってしっかりと学習することが明記されている点について説明がありました。東京書籍やほかの教科書に比べて、教出の教科書では、領土の問題については、257ページに少し少な目にまとめられているかもしれませんが、領土の問題を学ぶに当たって、「隣国と向き合うために」というキーワードを前提に学習を進めています。さらに最後のむすびは日韓で共催したワールドカップを取り上げ、日本の立場を踏まえた上で相手の考えも尊重して、対話と法に基づいて解決を目指していくと、これも今の子どもたちに向けたメッセージです。さらには、新宿区の中国や韓国といった国々の方が多いた学校現場においては、こういった配慮のある捉え方も非常に重要であるという話がありました。

いずれにしても、子どもたちの未来に向けたメッセージが明確な教科書ということで話題

になりましたので、紹介をさせていただきます。

○羽原委員長 僕は、近現代史を中心にして3冊を読み比べて、ほかの教科よりは比較的丹念に読み比べてみました。

それで、教科書について、先ほど調査委員長からシンプルな形でという説明がありました。これは歴史を教える上で非常に重要だと思いました。余り細部に入り込んで重箱の隅的な、つまり受験勉強的な、いわゆるターム的なものとか固有名詞とか、それが大切なのではなくて、大きい歴史の流れをどういうふうに捉えることができるかと。だから、時代をどこでどう区切るか、その時代の特徴が何であるか、それをしっかり捉えている教科書が使いやすいと、僕はそう思います。

だから、難しいからというよりも、ある程度どこかに掲載されていてもいいが、教える先生側がどのように流れを理解させることができるか、そのための教科書として何がいいか。僕はそういう観点では、例えば幕末から維新时期について、いい流れを押さえている教科書という意味で、僕は教出が比較的入りやすいと思っています。132ページから展開されていますが、「近代の幕開け」のところから、鎖国状態の日本に諸外国がどのように入ってくるのか。アメリカ、フランス等々、民主主義的な革命を経た国が絶対主義化、帝国主義化してきて、徐々に中国に入りますが、その前段として、日本に接近してくる。そのプロセスをしっかりと捉えるところから、日本はどのように危機に対応したか、そのときの日本がどういう状況にあったかという流れが、教出が非常に入りやすい。

それに対して、東京書籍も同じような構成ですが、例えば幕末のところに、136ページ、ここにイスラム文化が入ってきます。あと、これは流れではなく、「まとめよう」のところだけれども、流れとしては別のところで押さえられていないかなという感じで、時代の変遷、流れ、変遷の条件、状況、こういうものを追うには少し追にくい。

それから、教出のほうが、これからこういう授業に入っていきますよという簡潔な説明があって、徐々に入っていき、最後に、今まで学んだことの要旨はこういうことですねという振り返りがある。これが教出は割にやりやすい教科書ではないかと。初めに詳しい説明があって年表があると、何をこれから勉強するかポイントがつかめないうちに入っていく。もちろん、振り返り、まとめがあるとしても、最初は簡潔に、こういうことをこれからやるよということだけ簡単にやればよく、そのほうが入りやすいと思います。

僕も、大学で授業をする際、説明していても、近現代史まで入っていない学生たちが多いから、きょとんとしているんですね。イスラムってどういう文化でとか、若干分かるけれど

も、そんなに分かってはいないので、日本の国内の維新というものがどういうものかも、大河ドラマ的には分かるが、トータルで日本がどのような状況にあったかというようなことが分からない。という意味で、歴史の全体の捉え方というのを踏まえる教科書がいいという趣旨です。

それ以外に、言いたいことはたくさんありますが、教出はマグナカルタに触れたらもっといいと思いました。民主主義を説く基点は13世紀になりますが、マグナカルタからちょうど今年で800年になりますが、マグナカルタから民主主義を説かなければいけない。権力に対峙して、当時は大衆・民衆ではないが、しかしそれがつながって大衆・民衆の主張が活かされる民主主義ができた、その発端はマグナカルタなんだということが教出も不十分。ただ、東書はコラムに触れてある。民主主義を踏まえるための歴史でもあるわけだから、そのところが少し教科書全体に物足りないかなという印象がありました。

まだたくさん言いたいけれども、あと一つだけ言いますと、東書の248ページ、それから教出の242ページです。占領政策の転換あるいはその後の平和条約と安保条約、朝鮮戦争を迎えていくところですが、教育出版は242ページの文章冒頭、冷戦の緊張の高まりを背景に、連合軍総司令部は日本を民主化する方向から、中華人民共和国などのアジアの共産主義に対抗する勢力に育てる方向へと日本の占領政策を転換させていきました、これが通説だと思うんです。

東書のほうは、平和条約と安保条約、つまり政策転換のところを、占領の長期化が反米感情を高めることを恐れたアメリカは、日本との講和を急ぎましたという、捉え方が言葉の不足というか、終戦直後の捉え方をもう少し踏み込まなければいけないのではないかな。これは子どもたちにしっかりと教えておかなければいけない。戦後のスタートですからね。民主主義のスタートでもあるわけで、その辺が僕は東書については疑義があります。いろいろといところもありますが、教出のほうが使いやすいだろうと思います。

もっと言えば、東書の221ページ、それから教出の222ページ、その前の220ページのぜいたくは敵だとか、その戦時下の生活というのは、東書のほうは国家総動員法と国民生活を分離した形で書いています。教出のほうは、220から226ページにかけて、国家体制と戦時下の国民生活とまとめた形、つまりぜいたくは敵だ、欲しがりません勝つまではというところを、国民生活と国家体制をつなげる形で、戦時下における国民生活、それが何によってきたかということをきちんと分かりやすく流れとして押さえている。東書のほうは少し途切れるかなという感じで、最初に言ったような歴史は流れでという、そういう観点からするとどう

なのかなと思いました。

そのほか、ロシア革命で、レーニンを取り上げるほうが僕は的確だと。ソ連が生まれてくる土台のレーニンのほうが写真説明であったほうがいい。それから東書は、スターリンとニコライ二世、ニコライ二世はあってもいいけれども、スターリンとレーニンとを比べたら、やはりスターリンではなく、レーニンだろうなど、理論的にも。

東書もなかなかいいところもたくさんあるのですが、あえて教出の話をしました。僕の印象であります。

ということで、何か。僕がたくさん話してしまいましたが、ほかの方はいかがですか。

○松尾委員 調査委員長にも質問しましたが、時代の切れ目をどこにとるか、あるいは章の分かれ目ですよね。どこにとるのが分かりやすいのかという点については、今、羽原委員長から意見の開陳がございましたけれども、審議委員会のほうでは何かその辺について議論はございましたか。

○審議委員会委員 審議委員会委員の小林です。

今御指摘のありました時代の切れ目についてですけれども、切れ目については特段話し合いというのはありませんでした。ただ、時代の流れという部分では、つながりの部分をどう押さえるかということについては話がありまして、それぞれの章のまとめとつなぎのところで、どのようにその年代を押さえているか、次のつながりを考えているかというところでは、話題がありました。

○羽原委員長 よろしいでしょうか。

それでは、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○菊池委員 今、歴史については世間でも非常に注目されているものであります。私も、どうしても今の中学生に正しい知識を持ってもらいたいと思います。その中では、今おっしゃられたように流れというのがありまして、そこを曲げないで正しい記述を淡々としてある教科書が一番いいのだらうと思います。余計なことは余り書かないで、先ほど調査委員長にも御質問しましたけれども、正しく、流れがあって必然性がある、こういうふうになっていったと。悪いこともよいこともこういう流れでこうなってしまったということ、中学生たちがちょうど2年生の終わりぐらいに納得して、こういうふうになったと分かるような教科書がいいと思いました。

それで、私は昭和史は詳しくないので、羽原委員長に誤った記載はないかということだけ

は確認させていただきまして、そういう視点でこの教科書を拝見しました。

それで、推薦されている教育出版、全体の流利的にも、キャッチコピーみたいな、最初から「生きぬく知恵」とか「骨に刻まれた文字」とか、そういうふうに始まっていて、何を学ぶのかが分かりやすいという、そういう仕組みも非常に素晴らしいです。また、調査委員長も言っておられたように、日本の歴史と世界の歴史がリンクするように書かれていて、世界がこうだったから日本はこういうふうになったという、そういうことがしっかりとできていると感じましたので、私は教育出版を推薦したいと思います。

○今野委員 これは学校調査のほうも少し割れましたし、調査委員会でも並立的な結果になりまして、最終的に審議委員会で教出という結果になっているため、いろいろ議論があり得るところだろうと思いました。私も3冊を中心に詳しく見てみまして、結論的には教出がやはり一番いいのではないかと思います。

その理由ですけれども、1つは、羽原委員長がおっしゃられたように、読んでいて全体の流れが非常に分かりやすく、接続もいいと思います。それから、特に近代がきっちりと、3章編成になっているのも、じっくり勉強するときにはいいのではないかと思います。

それからもう一つは、今、菊池先生もおっしゃられたように、教育出版のほうは、小見出しが単に事項ではなくて1つのフレーズになっています。そのフレーズが、単に子どもの関心を高める、面白い言い方というのではなくて、本質的なところをかなり含んだフレーズになっていると思うんです。例えば、80ページに室町文化について、「今につながる文化の芽生え」というタイトルで出ています。それはまさに現代の日本人の生活文化が直接的には室町から始まる、衣食住、ルーツが直接的には室町だということがあって、そういうことを「今につながる文化の」という言い方をしているんですね。

ですので、興味・関心も高まると思いますし、基本の一つをそのフレーズで最初に訴えられるということで、学習にとっては非常にいいと思います。こういったタイトルのつけ方はすごく難しいと思いますが、ほかのところでも全部それを通して、かなりのところで成功しているのではないかなと思います。非常に学習の手助けになる構成になっていると思いました。

それからもう一つは、学習のめあてと振り返りという観点からずっと見てきましたが、特に振り返りのところでは、先ほど御説明いただいたように、日文のほうは結構難しく、白地が多いです。考え方や説明を全部自分で書くわけですが、これはなかなか、最後のまとめをするときにうまく入りにくいのではないかなと思いました。それから比べると、教出のほ

うは非常になだらかに知識・理解を振り返りながら、少しずつ表現を増やしていくということで、とても配慮がいいので、これも知識・理解が定着する教科書ではないかなと思いました。

そういうことから、審議委員会の答申どおりの教出がいいということでございます。

○松尾委員 3者、主に東京書籍、教育出版、日本文教出版というところが、学校調査、調査委員会、審議委員会で甲乙つけがたい部分があるということで議論になったところですので、私もこの3者に絞って詳しく内容を読み比べてみました。その結果、先ほどからの議論もございませけれども、私は、教育出版の教科書が3者の中で最も優れているという結論に達しました。

その理由は、もう既に出ておりますけれども、1つは、歴史の流れというものが捉えやすくなっている。そして、先ほど時代の切れ目、章の分かれ目について特に議論がなかったということでしたが、私個人としては、特に明治維新のところがちょうど章の分かれ目だと思っています。教育出版ですと156ページのところで、155ページで「第6章 近代の日本と世界」に入り、そこがちょうど明治維新のところで新たな章に入るというつくりになっています。

それに対して、東京書籍の場合ですと、141ページから第5章なんですが、少し前、「欧米の進出と日本の開国」というのがあって、それからワンステップあって明治維新というつくりになっています。

それから、日本文教出版は、第5編というのが145ページから始まって、「欧米の発展とアジアの植民地化」、近世から近代へとあって、その次に「近代国家へのあゆみ」ということで日本が明治維新に入るということです。

世界史の流れから見れば、確かに明治維新は日本という国の中での事象であって、世界の大きな流れというのは、その前後、非常にあるわけであります。しかし、日本に暮らす子どもたちが歴史を学ぶに当たっては、日本という国の大きな転換点である明治維新がちょうど章の分かれ目になっているほうが、時代の流れというものが生徒にとってはつかみやすいのではないかと。そこがちょうど日本の時代の転換点であり、それを認識した上で、その前後、果たして何があったかという視点で学ぶということが望ましいのではないかと、私個人はそのように感じました。これは異論があると思います。様々な考え方があると思いますが、私もそのように思いました。

それから、教育出版のものは、特に学習のまとめのページですね、これが、例えば152ペ

ージを開きますと、江戸時代からの流れというものが、日本の動き、世界の動きというふう
にまとめられていて、ここは問題形式で、当てはまる語句を書き出そうということで問題に
なっています。問題形式をとりながら、実は非常に分かりやすくまとめられていて、色分け
をして、これは子どもたちが実際にレポートを書いたりするときに、すごくいいお手本にな
ると思います。こんなふうにまとめたら歴史がとても見やすくなるよということです。レポ
ートあるいは壁新聞みたいなものをやるかどうか分かりませんが、そういうものをつ
くって、僕はこういうふうにまとめてみましたということで、実物投影機に置いて映して、
時代の流れを説明するといった、そういう活動をする際のいいお手本だと思います。

何となく漠然とわかったけれども、まとめなさいと言われても、どうまとめていいのか分
からないというお子さんがいると思います。そのときに、これのそっくりにやる必要はない
わけですが、お手本になるものがあると、こういうふうにまとめてみよう、自分なり
にやってみようという、そういう学習の入口になるのではないかなと私は思いました。

以上、総合的に判断しまして、私は教育出版の教科書が優れていると思います。

○古笛委員 私も結論として教育出版になりました。

審議委員会と学校調査と調査委員会、それぞれ声が分かれたので、いろいろ考えてみまし
た。特に東京書籍は、新宿区の1940年と1970年と最近の写真が載っていて、これはすごく面
白いなとは思いました。私は個々の歴史について詳しくないので、どれが正しいとか正しく
ないとかまではなかなか言えませんが、歴史を初めて中学生が習うときに、この時代ってこ
んな時代だったんだということを肌で感じていただくためには、タイトルですとか学習課題
とか、そういったところでもすごく工夫が見られる教出は面白いのかなと思いました。

それから、教科書の最後、先ほどもお話が出ていましたが、教出の終わりというのは、
「未来をひらくために」という終わり方をしています。東書の場合には「持続可能な社会に
向けて」、日文の場合には「日本をとりまく国際関係」ということで、同じような内容が書
かれていますが、視点というか、メッセージ性というのが、中学生にとってみたら、歴史を
学ぶことが、これからは自分たちが未来を切り開いていくためのワンステップなんだよとい
うことを受けとめてもらいやすいのかなと。どれほど意識するか分かりませんが、そう感じ
てもらいやすいのかなと。教科書をつくるときの思いもそこにあるのかなというのをすごく
感じました。

日文は、歴史を学んでというところで、最後に歴史の意義というものも書かれていて、高校
生ぐらいだったらこれがすごくいいかなと思ったんですが、初めて歴史を学ぶ中学生にした

ら、少し難しいのかなというところは感じましたので、最終的に教出になりました。

○教育長 私も教出がよろしいと思います。

皆さんおっしゃいましたが、キャプションみたいなものは本当に印象に残るところがあります。特に日本の歴史というのを、外国籍の関係の方はなかなか頭に入ってこないところがあるでしょうけれども、それを的確に、この時代はこういう時代だよということをつかめるというところで、導入で分かりやすいのではないかと。

それから、「振り返り」のところも、具体的なところから抽象的なことへというふうにならず聞き返しているのも、これも少なくとも具体的なことは教科書から探せる。その上でみんなで話し合っ、抽象的な、この時代の意味は何だろうということに入ってくるというのが、子どもたちもすごく学びやすいのではないかなと思いますので、私は教育出版を推したいと思います。

○羽原委員長 僕も、先ほど申しましたように、教出であろうということを申したので、特にお話しすることはありません。ただ1点だけつけ加えますと、教出の256、257ページ、「隣国と向き合うために」という、こういう角度で領土問題に入っている。僕も日本の固有の領土だという考え方はしておりますが、しかしそれを幾ら言ってみても、尖閣諸島を買ったからいいんだという問題ではなくて、中国と、あるいは竹島の韓国と、あるいは北方領土のロシアと、こういうところとの接点は何であるか、どうしたらいいのか、軍事的に解決するのか平和的に解決するのか、そういうことを前向きに考える。この教科書を使う子どもたちが壮年あるいは老年になるまでに決着がついているかどうか分からない問題ですから、そういう問題が揺れ動いているということを、こういう観点から教わっておくことは非常に大切だと、そういう意味でこのページはいいページだと思いました。

さらに言うと、243ページの「歴史のまど」というコラムに、歴史の中の在日韓国・朝鮮人というコラムがあります。これは内容的にもよくまとまっていると思っています。特に新宿区の場合、外国籍の子どもたちが多く、外国にルーツを持つ子どもたちが多くということからすると、今の若い先生には、こういう説明が教科書にあると、いろいろ問題に対応するときに、先生のほうがむしろ勉強になるかなという気がしまして、この部分もぜひ評価しておきたいと思います。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。

社会（歴史的分野）については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、教育出版の「歴史 未来をひらく」を採択の対象となる教科

用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○羽原委員長 そのように進めたいと思います。

次に、社会（公民的分野）について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明をお願いいたします。

○審議委員会委員 審議委員、中野でございます。

それでは、私のほうから社会（公民的分野）について御説明申し上げます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは東書で、10校中6校がA評価でした。

調査委員会の調査の結果は、東書が総合評価でAでした。

審議委員会では、東書をA評価としました。その理由、意見として、単元の終わりに、章の学習の確認があり、内容の定着を図ることができる、資料や関連ページが本文中に記号で示されており、生徒が主体的に学習することができる等が挙げられました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、教出については、授業の振り返りは、基礎的な内容を確認した後で説明するという2段階で構成されている。清水については、「もっと知りたい公民」はコンパクトにまとめられ、生徒が社会を多角的に捉えることができる。帝国については、「トライアル公民」は、意見をまとめたり話し合ったりする言語活動を行うのに有益である。日文については、教科書冒頭に公民を学ぶ意義が示され、公民への学習への関心・意欲を喚起することができる。自由社については、コンパクトにまとめられており、読むことを中心として学習を進めることができる。育鵬社については、新聞記事が多く提示され、内容が社会とつながっていることを生徒に意識させることができるなどがよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった東書をAと評価いたしました。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御質問、御意見がありましたらどうぞ。

○松尾委員 先ほどの調査委員長の説明では、社会科全般的に関心を引いてということが重要であって、昔風の授業ではないということでしたが、それは全体的に見ればそうかもしれませんが、例えば法律に関連すること、こういう部分というのは、別に衆議院の定数を覚える

とかそういうことではなくて、仕組み的な部分というのは、抽象的な面もあって理解するのが難しいと思います。関心をもってもらってというのも確かに大切ですが、その中で、これはある程度正確に理解しなければいけない、しかも抽象的な部分が多いということで、これはなかなか指導が難しいところではないかと思います。

公民は、法律に関する部分ということでほかの教科と毛色が違うような気がしますが、そういうところでは、各者それなりに工夫が必要なところだと思いますが、審議委員会ではどのように評価されましたでしょうか。

○**審議委員会委員** 例えば東書の教科書でいいますと、第2章のところは日本国憲法、憲法の学習になりますので、38ページをお開きいただきたいのですが。

○**松尾委員** 私は主に、例えば84ページの「国会の地位としくみ」とか、法律の選定、それから行政のしくみ、内閣、行政の役割とか、裁判とか、このあたりですね。日本国憲法はもちろん非常に重要ですが、国の政治の仕組みというところです。そのところはなかなか生徒には難しいところじゃないかと思います、抽象的で。

○**審議委員会委員** 例えば84ページですと、この章については確実に理解をしなければいけないというところで、どれだけきめ細かな配慮がなされているかというところがポイントになるかと思います。東書の教科書については、「内閣」でP88と記載がされています。88ページに戻ると、内閣についておさらいをすることができるということです。また、本文の中に四角囲みの白抜きの2、3、4とに示してありまして、これは教科書の上側に補足の説明が細かく書かれております。ここを見ますと、より正確に理解できるということで、このような記載の工夫がございます。

○**審議委員会委員** 審議委員会委員の小林です。今御指摘いただいた内容ですけれども、小学校の社会科でも6年生のときに、国会のことであるとか、内閣と裁判所の三権相互の関連、司法参加、租税の役割、それから地方公共団体や国の政治の働きなどを基本的には学習しています。国会については見学などにも行っているということがありますので、確かに中学校の公民でこういったことを学びますけれども、そのもとになる部分については、小学校6年生でも基本的なところを押さえているということもありますので、そういったこともお伝えしておきたいと思いました。

○**松尾委員** そうしますと、大まかなところは小学校で勉強して、既に知っているところをさらに詳しく見ていこうという、中学校3年では大体そういう感じで勉強するということでよろしいでしょうか。

○審議委員会委員 はい。

○羽原委員長 そのところは、僕は教科書のつくりの問題があると思うのは、三権分立から入って、なぜ三権分立なのかという、その必要性を説明する。司法、行政というものがどのように機能しているかというふうに、もう少し実感に迫れるような、あるいは体系的に頭に入るようにしたほうがいいと、僕はそう思います。僕は、大まかなところだけわかっていればいいので、衆議院の定数、参議院の定数などは、必要なときに調べればいいと思っています。それよりも、選挙があったらどこが多数だったかとか、そういうことが大切なので、なるべく身近な、政治あるいは国会なり裁判なりの仕組みが身近に入ってくるほうがいいと思います。どうも教科書が教条的に過ぎると僕はいつも思っていますが、もう少し身近に感じる手法というものを考えたほうがいいだろうなど。あるいは授業をする先生がもう少し、ページ立てを壊すとか。最後にカリキュラムにのっとってればいいわけでしょう。僕はそういう印象です。

よしあしに入る前に、今、政治の話が出たから、政府の仕組みみたいな図がありましたが、大したことではないけれども、東書のほうは法務省の下に点線で検察庁がついて、日文のほうはない。だけど、普通の行政との絡みではないが、あったほうがいいだろうなど。全く細かいことですが。

○審議委員会委員 89ページですね。

○羽原委員長 そうです、89ページ。点線で検察庁はある。これは必要だと思うんです。

それから軍縮と核は、日文が188、189ページ、それから東書が200、201ページ。同じ世界平和のためにという趣旨ですが、日文のほうが、軍縮の問題あるいは核の問題について幾分分かりやすく記述されているかなと。

そういう意味で言うと、同じようなことは、東書の16、17ページの日本の伝統・文化、その後、日本の文化とかその辺、それから日文のほうは14、15ページ、現代社会における文化の役割、いわゆる生活と文化のところ、日文のほうが具体的ですね。東書のほうは少し抽象的と。同じようなことが書いてあるけれども、より具体性があるから身近に感じられるかなという、そんな感じはあります。

それから、環境・公害など、地球の温暖化などについては、これは東書のほうがいいかなと思いました。

それから、リサイクルはあるけれども、ごみの問題については少し全体に薄いかなと。これからの問題としてはごみはかなり重要だけれども、少し薄いかなという。

○古笛委員 先ほど社会科委員長から、今使っている教科書だからというわけではなくて、まっさらな目で評価した結果、東書ということになったということです。学校調査のほうでも、今、日文を使っているけれども、日文をA評価とした学校が2校しかなくて、東書のほうが圧倒的に多かったという、この点がとても気になりますが、何か決め手はあったのでしょうか。

○審議委員会委員 決め手といいますと、いろいろ理由はありますけれども、実は平成23年度まで使用していた教科書は東書でして、平成24年度の中学校の教科用図書の公民を選ぶ際に、新しい改訂の趣旨に添っているという部分で、一度、日文の教科書に変わったという経緯があります。ただ、当時も学校調査の結果は東京書籍を推す声が多かったのですが、内容から一度転換してみようというところがあったかと思います。

ただ、根強く東京書籍の教科書を使用したいという学校現場の声や、調査委員会についても、東京書籍の教科書がよくなったというところもあって、評価が東京書籍に傾いたのかなと、審議委員会でも分析はしています。

○教育長 細かい話ですが、東京書籍の138ページに需要・供給曲線が出ています。需要量、供給量の説明はありますが、このぐらいの説明です。例えば教育出版は130ページに見開きで需要曲線と供給曲線て何だろうというのが出ています。需要曲線、供給曲線という話は、中学生で初めて聞く言葉でしょうが、東京書籍のこの説明で教え切れるのでしょうか。細かい具体的な質問で申しわけないですけれども、一般に価格が下がると需要が増えるので供給量は増えます。逆に云々と説明があって、それでこういう曲線ができ上がりますとあります。

○教育指導課長 審議委員の横溝です。

今、教育長の御指摘の教育出版ですが、このページは「読んで深く考えよう」というページです。少しお戻りいただきまして、教出の127ページに、需要曲線と供給曲線というグラフが出ております。これをさらに詳しく学ぶ場面が「読んで深く考えよう」なので、ここには詳しく述べられている。一方、東京書籍は、「読んで深く考えよう」という大きな取り扱いはしないで、先ほどお示しいただいた138ページの需要・供給曲線の関係と、その前の「公民にチャレンジ」というコラム欄で、実際に演習的なことをやってみようという扱いになっている。つまり扱い方の違いだと言えるかと思います。

○教育長 137ページの上のところ、実際に需要曲線と供給曲線を書くから、ここで補うことができるということですね。分かりました。

○羽原委員長 ほかによろしいでしょうか。何か御意見ございましたらどうぞ。

では、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思えます。

○教育長 私は、結論として東京書籍がよろしいと思えます。

先ほど横溝委員から御説明いただきましたけれども、「公民にチャレンジ」だとか「公民にアクセス」だとか、本当に的確にコンパクトにまとめ上げているコーナーがあって、これは、文章をつくるのがうまくないと指摘されている子どもたちにとってみれば、このぐらいの分量でこのぐらいのことが言えるというのは、すごいためになると同時に、自分の頭の整理もつくだらうなど。特にチャレンジの部分は先生たちの力量を期待して、東京書籍を推したいと思えます。

○古笛委員 私も結論としては東京書籍です。

先ほど御説明いただいたとおり、審議委員会、学校調査も調査委員会も全部意見が一致して、特に、前回使っている日文ではなくて、それ以上の評価を学校現場でしたということはすごく大きいなと思えました。

内容を確認させていただいても、確かにいろんな今のトピック、各政党の党首の写真が載っていたり、子どもたちがとても興味をもちやすい構成になっていると思えました。

○松尾委員 これに関しましては、現行の教科書の日文、あるいは学校評価ですと東京書籍となりますが、東京書籍の評価のほうが圧倒的で、現場の先生方から東京書籍がよいという評価をいただいております。調査委員会の評価でも東京書籍、審議委員会でも東京書籍ということでございますので、実際見比べてみますと、やはり東京書籍のほうが分かりやすくする工夫というのが随所に見られまして、細かいところで、かゆいところに手が届く的な配慮がなされているかなという印象をもちました。

というわけで、私は東京書籍の教科書がよろしいと思えます。

○今野委員 学校現場も調査委員会も審議委員会も全て東書ということで、私も東書がいいと思えました。

理由ですけれども、公民はかなり抽象度が高い、難しい勉強だと思うので、子どもたちの最初の導入がとても大切だと思います。その点、東書の教科書はかなり工夫されていて、例えば現代政治と社会を勉強するときに、誰を首長に選ぶべきかというところから入っていったり、暮らしと経済、これは第4章ですけれども、コンビニエンスストアの経営者になってみようということで、ウォーミングアップをさせた上で勉強に入っている。それから、第1

章の冒頭の、現代社会の特徴を勉強するのにスーパーマーケットの値段からということで、そのあたりはとても配慮された構成になって、勉強しやすいだろうなと思っています。

それから、30ページに決まりの評価と見直しが書いてあります。学校では、ややもすれば従来、決まりを守りましょうということが多かったわけですが、これからは、守ると同時に、常に見直しながら、自分たちできまりをつくっていきましょうという方向がすごく出てくると思っています。そういう点で、きまりは変更できる、どういう評価・観点ですのかというように踏み込んで書いてあって、同じような決まりをつくりましょうというのはほかの教科書でもありますが、とてもしっかりとした書かれ方になっているのではないかなと。ごく一部ですけれども、そういうところも評価できる点かと思いました。

いずれにしても、東書がいいと思います。

○菊池委員 私は、これはやはり難しいと思いました。公民という科目がなかったものですから、公民では一体何を学ぶのかというところから読ませていただきました。これだけ多岐にわたってやるということで、今、今野先生がおっしゃいましたけれども、何をやるのか取りかかりにくいというところにあって、スーパーマーケットから入ったというところは、すごく入りやすいのかなと、同感です。

それから、難しい憲法や人権など、そういうものについてかなり分かりやすく書いていますし、先ほど審議委員の中野さんから指摘があったように、40ページのところで、抜き出しの1、2などで示していたり、何ページかというように非常に丁寧に分かりやすく、そこを見れば具体的なところが見えてくるというつくりもよかったです。世界平和というか、人権というか、国同士の戦いとかテロとか、いろんな問題を非常に分かりやすく書いてありますし、環境問題から資源・エネルギーの問題、貧困の問題、全てきちんと分かりやすく書いてあるなというように思いました。

私も東京書籍を推薦したいと思います。

○羽原委員長 僕は、日文の、先ほども言ったように夜景ですね。地球の夜景、これが公民という授業に非常に入っていくやすいということで、これは非常に気に入りました。

目次のところを見ると、カラフルで見出しぐらい落ちついてほしいという感じがありました。これから公民という余り知らない授業、内容的に分からない状態で入っていくときに、もう少し落ちついて考えられるような東書の目次のほうがいいと思います。つまり、分からない、初めての教科だからこそ導入部が非常に大切だと。東書のほうは最初のところに、公民の授業のイメージづくりにスーパーマーケットを使い、中のほうにはコンビニの暮らしと

いう観点が入ってくる。つまり、社会の縮図的なコンビニなりスーパーマーケット、これで解き起こしに使っているのは非常に入りやすいのではないかなという印象がありました。細かいところは先ほど言ったとおりであります。

僕は日文もいいなと思っています。メディアリテラシーなんかの部分も、材料は違うが両方うまく扱っているし、どちらでもいいと思いつつ、現場の先生方の判断等々見ますとそういうことかなという、若干追隨的に東京書籍がよろしいかという印象です。

今までの協議内容の確認をしたいと思います。

社会（公民的分野）については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、東京書籍「新しい社会 公民」を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○羽原委員長 それでは、地図にいきたいと思います。

地図について、教科用図書審議委員会ではどのような審議、検討が行われたのか、御説明ください。

○審議委員会委員 審議委員、中野でございます。

それでは、私のほうから地図について御説明申し上げます。

まず、学校調査の結果についてです。最もA評価が多かったのは帝国で、10校中7校がA評価でございました。

続きまして、調査委員会調査の結果としては、帝国が総合評価でAでした。

審議委員会では、帝国をA評価としました。その理由としては、江戸の地図は、今の東京の地区が見開きで示されており、比較しながら学習することができる、また、「やってみよう」「地図をみる目」のコーナーは、生徒の地図への興味・関心を高め、家庭学習にも活用できる等の理由が挙げられました。

また、審議委員会では、他者に関する意見として、東書については、原油やウラン等の資源の写真が掲載され、生徒のエネルギー資源への関心を高める工夫がされているなどがよい点として挙げられました。

最終的に、審議委員会として、学校調査、調査委員会調査の報告等を踏まえ、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会調査でA評価であった帝国をAと評価いたしました。

以上でございます。

○羽原委員長 説明が終わりました。

御質問、御意見がありましたらどうぞ。

それでは、特によろしければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○菊池委員 私は、圧倒的な見やすさと分かりやすさで、地図はこうあるべきかなと思いますし、特に東京・新宿のあたりは圧倒的に分かりやすいということの評価したいと思います。帝国書院の地図を推薦したいと思います。

○今野委員 これも現場、調査委員会、審議委員会、全て帝国ということですので、私も帝国がよろしいと思います。

説明にもありましたように、地図自体も見やすいと思いますけれども、地図以外の資料その他の図表も含めて資料が非常に多いという点が評価できると思います。

以上です。

○松尾委員 これはもう既に出ていますけれども、新宿付近の地図というものが帝国書院は非常に充実しておりまして、119、120、121ページ当たりで出ている。それから、索引にも新宿区と出ています。これは先ほど聞けばよかったかもしれませんが、東京書籍の新宿というのは索引の中で見当たりませんでした。東京都特別区というのはありましたが、新宿区というのは見当たらなかったです。

それともう一つ。東京書籍の73、74ページのところに日本全図があります。それから、帝国のほうは78、79ページを開いていただきたいのですが、東京書籍のほうは日本全図と書いてあるにもかかわらず、沖縄がここには出ていません。では沖縄は出ていないかという、次のページを開くと、南西諸島といって出てきますが、日本全図の中の南西諸島ではなくて、南西諸島という見出しになっています。それで、やはり日本全図の中に沖縄がないといけないのではないかと僕は思いました。

入り切らないから次のページだとしたら、そこは、日本全図の南西諸島の部分となっていればよいと思うのですが、帝国のほうはそうなっている。帝国のほうは、75ページのところに日本列島南西諸島となっていて、沖縄を含む部分があり、1つめくりますと、日本列島ということで残りの部分というつくりになっています。だから、これだと日本列島のうちの、南西諸島は広いから、入り切らないのでこちらにきました、でもどちらも日本列島の地図ですという位置づけですけれども、東京書籍はそうなっていません。だから、75ページはあくまで南西諸島の地図と書いてある。だから、これはおかしいのではないかなと僕は思いまし

た。

○羽原委員長 僕もそのとおりだと思います。ただ、帝国書院のほうも、出ていけばいいという、宮古とか八重山列島は別になっています。つまり距離感が出てこないわけですね。だから、これをやるのであればもう少し工夫をして、沖縄を全図の中に入れる工夫を地図としてしたほうがいい。四角の中にあるからいいだろうといっても、距離感がないじゃないかと、沖縄の人は怒ると思います。

○松尾委員 以上申し上げましたが、総合的に判断しまして、私は、地図に関しては帝国書院ということで採択することを勧めたいと思います。

○古笛委員 私も結論としては帝国書院です。

見やすさという意味では、私自身が子どものころから帝国書院の地図を使っていたので、見やすいのかなというところもありますが、東京書籍のほうもいろいろ工夫されているなどというのはすごく思いました。郷土料理と地図を絡めてみたり、ご当地キャラクターを載せてみたりと、子どもが喜ぶような工夫はされていると思いましたが、地図というのは中学校で使うだけではなく、もしかしたら大人になってもずっと持っておくかもしれないということなども考えると、現場の先生方も圧倒的に推されているので、帝国書院でいいと思いました。

○教育長 私も帝国でお願いしたいと思います。

先ほど御説明がありましたように、資料点数も圧倒的に違いますし、その割にはうまく整理をされていて、様々な地図が載っています。好きな子だったら地図を見ているだけでも統計資料と地図を見比べるだけでも楽しいかなというように思いますし、そういうことが学校現場でも評価されているのかなと思います。帝国書院でお願いしたいと思います。

○羽原委員長 僕も帝国書院です。

それで、カラーとかそういう面も帝国のほうの方が優れていると思うと同時に、巻末の資料、これが東京書籍は1年ずつ古い部分です。帝国書院のほうが一生涯懸命、2013年ぐらいの数値、アフリカ等々いろいろ数字的には難しいところもありますが、1年ずれた統計が東京書籍にある。これは新しいものがある以上は努力しなければいけないと思うし、4年も使っているうちには相当古いデータでやるわけです。その点については、この前聞いたら、特に資料を再配布するという事はないようです。再配布があればそれでいいのですが、僕はやはり原本に新しいデータがぜひ欲しい。そういう意味で帝国書院にはそれがあるということで、僕も帝国書院でいきたいと思っております。

ということで、今までの協議内容の確認をしたいと思います。

地図については、本日審議した中で、科目の特性、審議委員会の調査結果を踏まえ、皆様の総意として、帝国書院の「中学校社会科地図」を採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○羽原委員長 それでは、そのように進めたいと思います。

以上で、本日の種目ごとの質疑と採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。

本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かございましたらどうぞ。

○教育調整課長 特にございません。

◎ 閉 会

○羽原委員長 非常に長時間にわたってありがとうございました。また、傍聴の皆さん、ありがとうございました。

これをもって本日の教育委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。

午後 7時01分閉会